#49_回

Eliko BREDEL

作文。図画入賞作品集









JA群馬中央会・JAグループ群馬

も く じ

●図画部門

群馬県コンクール金賞作品 1全国コンクール農林水産大臣賞

群馬県コンクール銀賞作品 ……… 5

群馬県コンクール金賞作品 ……… 3

群馬県コンクール金賞作品 2 全国コンクール優秀賞作品

●群馬県審査員	●審 査 評	•あいさつ	●JA別応募数	群馬県コンクール銅賞作品	群馬県コンクール銀賞作品	群馬県コンクール金賞作品	群馬県コンクール金賞作品	群馬県コンクール銅賞作品
64	60	59	58	40	23	15	14	10



全国コンクール 農林水産大臣賞

群馬県コンクール 金賞



みんなでたべると おいしいおすし

太田市立北の杜学園 1年 吉田 薫





全国コンクール 優秀賞

群馬県コンクール 金賞





収かく

明和町立明和西小学校 5年 鑓田望人



待ちに待った稲刈り体験

伊勢崎市立あずま中学校 1年 荻原大陽

全国コンクール 優秀賞

群馬県コンクール 金賞



群馬県コンクール 金賞



わたしの夏の大好物! とうもろこしごはん!! 高崎市立塚沢小学校 3年 佐々木ゆめ



ひとつぶひとつぶ 命のかけら _{前橋市立荒牧小学校 2年} 田部祐太

群馬県コンクール 金賞



手まきずしは 最高だ

太田市立木崎小学校 4年 脇 坂 卓 杜



群馬県コンクール 金賞



もうすぐできるよ

伊勢崎市立第四中学校 2年 小林 暖



私のたいたご飯、召し上がれ

前橋市立勝山小学校 6年 岡芹若奈

群馬県コンクール 金賞



炊き立てご飯

板倉町立板倉中学校 3年 根 岸 舞

群馬県コンクール 銀賞





外でおにぎり

前橋市立清里小学校 1年 高橋永奈

おむすび おいしいな

館林市立第一小学校 1年 板橋 大知

群馬県コンクール 銀賞

群馬県コンクール 銀賞





いねかり

明和町立明和西小学校 2年 鑓田惇人

動物たちとたのしい おにぎりパーティー

ぐんま国際アカデミー 2年 酒井美咲



群馬県コンクール 銀賞





弟に離乳食をあげる私

太田市立北の杜学園 3年 髙 橋 凛

きょうだいでチャーハンづくり

高崎市立塚沢小学校 3年 中嶋鈴乃

群馬県コンクール 銀賞

群馬県コンクール 銀賞





おさしみには やっぱりごはんでしょ

安中市立原市小学校 4年 金井咲葉

おいしいおにぎり、いただきます!

前橋市立勝山小学校 4年 岡芹有希奈

群馬県コンクール 銀賞



美味しいお米、 いただきます!!!

伊勢崎市立殖蓮第二小学校 5年 新井陽万里

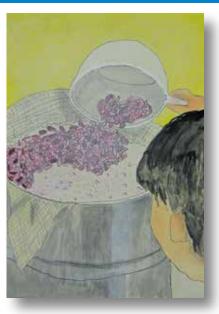


エネルギーチャージ!

太田市立北の杜学園 5年 小林 楓

群馬県コンクール 銀賞

群馬県コンクール 銀賞



蒸してつくったお赤飯

太田市立鳥之郷小学校 6年 横倉 元



大もりごはんとぼくと弟

太田市立南小学校 6年 小島城人



群馬県コンクール 銀賞



田植え

高崎市立片岡中学校 1年 清水美緒

群馬県コンクール 銀賞



ご飯がある幸せ

太田市立藪塚本町中学校 2年 松田悠里



米で育つ僕たち

伊勢崎市立あずま中学校 1年 吉田郁翔

群馬県コンクール 銀賞



私の好きな白米

高崎市立八幡中学校 2年 清水いちか



やっぱり米が一番うまい!! 大切なお米

高崎市立八幡中学校 3年 外所冬蘭

群馬県コンクール 銅賞



わあ!きれいなごはん! おいしそう!

太田市立鳥之郷小学校 1年 須藤暖乃

群馬県コンクール 銀賞



板倉町立板倉中学校 3年 飯島康太

群馬県コンクール 銅賞



ようちえんでのおべんとう

前橋市立清里小学校 1年 久保陽愛



群馬県コンクール 銅賞



妹の好きな七色おにぎり

曜 安中市立安中小学校 2年 安藤



大すきな しおにぎり

前橋市立時沢小学校 2年 竹之内 和

群馬県コンクール 銅賞



群馬県コンクール 銅賞



おにいちゃんがごはんをたべてる

安中市立原市小学校 3年 ヨシトミ オクムラ アイリ アンジー



おいしいごはんいただきます

前橋市立荒牧小学校 3年 久保田遥文

白いごはんいただきます

高崎市立南八幡小学校 4年 武藤結依

群馬県コンクール 銅賞



まちきれないおいしいごはん

館林市立第一小学校 5年 森田美咲

群馬県コンクール 銅賞



苗間作り

太田市立強戸小学校 4年 山口健人

群馬県コンクール 銅賞



おいしいおにぎり出来るかな

前橋市立粕川小学校 5年 坂本結香





おいしい物食べてる時が、 一番幸せ

前橋市立城南小学校 6年 中村柊斗

群馬県コンクール 銅賞



お祖父ちゃんの美味しいお米

太田市立駒形小学校 6年 小沼優里彩

群馬県コンクール 銅賞



友達と食べたお弁当

伊勢崎市立あずま中学校 1年 谷 菜羽

群馬県コンクール 銅賞



おじいちゃんとのお米

太田市立宝泉中学校 1年 鶴谷優臣

群馬県コンクール 銅賞





夏野菜とごはん

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飛田美空

おいしいお米と田園風景

玉村町立玉村中学校 2年 門倉双葉

群馬県コンクール 銅賞



初めての稲刈り

板倉町立板倉中学校 3年 倉田乃愛

群馬県コンクール 銅賞



あたたかいごはん

前橋市立元総社中学校 3年 福島羽那



全国コンクール 優秀賞

群馬県コンクール 金賞

お母さんとのり弁を作ったよ

千代田町立東小学校 3年 大竹 柚衣香

が入っているお弁当だ。 夏休みになると、私は学童へ行く。お昼は、たくさんのご飯「お母さん、今日のお弁当はなあに?」

お店で売っているのと少しちがっていておもしろいからだ。私は、お弁当の中でのり弁が好き。お母さんが作るのり弁は、「今日は、柚衣香の好きなのり弁だよ。」

「米という字を分解すると、八と十と八でしょ。今は、機械に乗って全部の田んぼのお米の様子を見に周っていたそうだ。じいちゃんが作っていた。ひいじいちゃんは、毎日軽トラック私の家のお米は、今は親せきから買っているが、昔は、ひい

手間をかけていたんだよ。」でできることも増えたけど、昔は、お米を作るのに八十八もの

れからも残さず食べよう。と、お母さんが教えてくれた。米作りって大変な仕事だな。こ

まったご飯をおいしく食べていきたいな。との間、お母さんと一緒にのり弁を作った。お父さんはお肉で、そぼろ。お兄ちゃんは白いご飯が好きなので、そぼろ。お兄ちゃんは白いご飯が好きなので、かられているのかな。」と、思いながら作った。お母さんも毎日こんなふうに考えながら作ってくれているのかな。この間、お母さんと一緒にのり弁を作った。お父さんはお肉この間、お母さんと一緒にのり弁を作った。お父さんはお肉

全国コンクール 優秀賞

群馬県コンクール 金賞

里山のおにぎり

前橋市立第一中学校 1年 荻 原 一言羽

しながら発車を待つ。毎年、夏休みに祖父母の家に滞在するこ電車を乗り換えると、ボックス席の窓側に座って、わくわく

夏の光景の一部になった瞬間だ。

夏の光景の一部になった瞬間だ。

の光景の一部になった瞬間だ。

をさ話のような山々。川が現れる度、電車の音は夕、タン、タ、おとぎ話のような山々。川が現れる度、電車の音は夕、タン、タ、か電車に驚いて飛び立ったかと思うと、向こうにはなだらかなが電車に驚いて飛び立ったかと思うと、向こうにはなだらかながまかより。と必ず祖父は言う。 久しぶりで少し照れながら、おとぎ話のような山々。川が現れる度、電車の音は夕、タン、タ、タンと軽くなる。その片隅で、白さぎの家族が高十くない。とは、私にとって最大のごほうび。それはすでに、この車窓のとは、私にとって最大のごほうび。それはすでに、この車窓のとは、私にとって最大のごほうび。

うさわやかな生命力が心地いい。かに青く、夕方には青田風が吹いてきて、他の季節とはまた違もなつかしく落ち着く場所だ。特に夏は、田んぼの稲ものびや祖父母の家は、山と田んぼに囲まれた集落にあり、いつ来て

のが一番おいしい。

一番おいしい。でも、やっぱり、祖母の梅干しはおにぎりにするた。この梅干しがびっしり詰まっている甕にはびっくりした。この梅干しがびっしり詰まっている甕にはびっくりした。涼しい味噌蔵に大きさ別に大切にしまってあるなかで家に着くのも早々に、祖母はお手製の自慢の梅干しを見せて家に着くのも早々に、祖母はお手製の自慢の梅干しを見せて

で作ったお米と祖母の梅干しでおにぎりを作ると、暑くて食欲変わっても、お米のおいしさは変わらない。その祖父の田んぼ合いに貸すことで、祖父の田んぼはまだ生きている。作る人がそのおにぎりのお米も、近所にある祖父の田んぼで作られた

かず。 冷めても噛みごたえがしっかりあって、やさしい甘みが最高な祖父の田んぼでとれたお米は、炊くと夏の雲のように白くて、が落ちた時でも、するっと食べられてしまうのだからすごい。

喜らしというものも確かにある。 中での里山体験をしているが、将来の選択肢の中に、里山でのよう。調べてみると、各地で里山体験という、田植えや稲刈り、原う。調べてみると、各地で里山体験という、田植えや稲刈り、日本中の、里山に守られた暮らしが、ずっと続いてほしいと

味噌、甘酒といった日本の伝統食を積極的に取り入れ、力をつ私達から体力や気力をうばうが、そんな時こそ、お米や梅干し、とも、米作りを守っていく上で大切な課題だ。最近の酷暑は、また、米を作る人の確保とともに、米を食べる人を増やすこ



たし、

気を届けられるような人になりたいと思う。だそう。そして、私も祖父母のように、何かを通して誰かに元米と祖母の梅干しで作った里山のおにぎりを食べて、元気に過らく会えないのかと思うとさびしいけれど、祖父の田んぼのお今、私は自宅に戻ってきている。大好きな祖父母にまたしば

群馬県コンクール 金賞

おいしいおこめ ありがとう

みなかみ町立水上小学校 1年 関口 宏翔

いるおこめです。っとりにすんでいる、おじいちゃんとおばあちゃんがつくってっとりにすんでいる、おじいちゃんとおばあちゃんがつくってぼくのうちのおこめは、とっとりからおくられてきます。と

おじいちゃんやおばあちゃんもおなじきもちなのかなとおもいがあります。あめのひいがいは、まいにちみずをあげました。で、ほができるまでにじかんがかかることをしっていたけだの、ほができるまでにじかんがかかることをしっていたけがあります。あめのひいがいは、まいにちみずをあげました。ぼくは、ほいくえんのときにバケツでおこめをつくったこと

しることができました。びました。じぶんたちでそだてたことで、よりおこめのことをました。じっさいにおこめができたときには、みんなでよろこ

おあめがふったとし、おばあちゃんがいいました。 しかし、いつもじょうずにつくれるわけではありません。お

いしいおこめがたべられることにかんしゃしています。かならずおこめをおくってくれます。だから、ぼくはいつもおと、がっかりしていました。そんなおこめがすくないとしにも、なおもいをしたのに、ことしはあまりおこめができそうにない。」「いねがみずにつかってめがでてしまった。あんなにたいへん

す。まいにちごはんをもりもりたべるぞー! ことしのなつも、とっとりのおいしいおこめがたべられるのをたのしみにしていまうです。たいふうがこないことをいのっています。ことしもとにひろがっていました。くがつのおわりにはいねかりをするそにかおきくなったいねのさきにほがついて、たんぼいっぱいことしのなつも、とっとりのおじいちゃんのいえへいきまし



おばあちゃんのしおむすび

高崎市立佐野小学校 2年上 田 怜

びです。 米があまくて一つぶ一つぶがキラキラでとてもやさしいおむすぼくは、おばあちゃんが作ったしおむすびが大すきです。お

でがんばるんだよ。」とお母さんが言いました。だったから、「今日は一日おばあちゃん家ね。」おむかえくるまぼくが小さい時に、カゼを引いてお父さんお母さんがしごと

ぼくはすこしふあんな気持ちだったけど、

言ってへやからでていきました。言ってへやからでていきました。おばあちゃんがいしい物を作ってくるからまっててね。」とお母さんとおばあちゃんが「怜くんよこになってなさい。」とすぐに元気になるおいしい物を作ってくるからまってなさい。」とすぐに元気になるおいしい物を作ってくるからまってなさい。」とすぐに元気になるおいしい物を作ってくるからまってなさい。」とう「いらないよ。」と言いました。おばあちゃんが「怜くんよこになってなさい。」とすぐに元気になるおいしい物を作ってくるからまっててね。」と言ってへやからでていきました。

しばらくすると、おばあちゃんが来て「おまたせ。」と言った

が出るから食べて。」と言いました。がありました。「なにこれ。」と聞くと「しおむすびだよ。元気ので、ぼくはおきてみたら目の前にキラキラした白いおむすび

じめました。は「なんでこんなにおしいいの。」と聞きながら二つ目を食べは食べました。おばあちゃんは「ほらね。おいしいでしょ。」ぼくはパクリと一口食べました。さっきまで何も食べたくなぼくはパクリと一口食べました。さっきまで何も食べたくな

いました。いました。」と言ってニコニコしておばあちゃんは「はい。わかりました。」と言ってニコニコしていしいからカゼじゃない時も作ってね。」とおねがいしました。びだからだよ。」と言いました。なんだか元気になってきて、「おびそれはね。早く元気になってねと心をこめてにぎったおむす

群馬県コンクール 金賞

無農薬の田植えをした思い出

太田市立九合小学校 4年肥 十上 裕 司

父が教えてくれました。ぼくはそれを聞いて、どんな味なんだえをしました。無農薬とは、農薬を使わずに育てる方法だと、去年の春、父とぼくは近くの田んぼを借りて、無農薬の田植



ろうと、とてもわくわくしました。

えました。 足がずぶずぶとしずんでいきました。それが気持ちよくて、楽 れました。ぼくも早くやりたくなり、田んぼに入ると、どろに しくて、はいていたサンダルをぬいで、父と笑いながら苗を植 田植えの日、父が田んぼに入り、苗を植える方法を見せてく

変さと、難しさを学びました。お米の大切さを知ることができ りしている苗もありましたが、列に並んでいる苗を見ると、が ねいに苗を植えていきました。少ししずんでいたり、曲がった 楽しみになりました。 ました。ぼくは、父といっしょに植えた苗がどう成長するのか んばって植えたたっせい感がありました。そして、田植えの大 た。でも、ゆっくりでいいよと、父が言ってくれたので、てい で苗がたおれたり、水にしずんでしまったり、とても大変でし 苗を植えるのは、かんたんだと思っていましたが、どろなの

りました。父といっしょにイネかりをして、イネを干しました。 とてもきれいに黄金色にかがやいていて、うれしい気持ちにな 自分たちで育てたお米は、きっとおいしいだろうなと思いまし ました。ぼくが植えた苗は、ちゃんと育つか心配だったけど、 ぼくたちが植えた田んぼは、秋になると、黄金色になってい

「今日は自分たちで育てたお米を食べよう。」

の味は、今まで食べたご飯で一番おいしい味がしました。どろ が来ました。母がおちゃわんにご飯をよそってくれました。そ と父が言いました。ぼくたちが田植えをしたお米を食べる日

> 田植えの光景がよみがえりました。それは、特別な味でした。 大切さや、食べ物のありがたさを感じることができて、とても を知ることができました。田植えという体験を通して、自然の の感しょく、苗がうまく植えられない思い出、黄金色のイネ 良かったです。 無農薬の田植えをして、お米作りの大変さと、自然のめぐみ

群馬県コンクール 金賞

お米係大成功

二日目のお昼に行った、飯ごうすいはんだ。 たくさんの学びがあったけれど、中でも印象に残っているのは この夏、ぼくたち五年生は、一泊二日の林間学校へ行った。

前橋市立上川淵小学校 5年

篠原

一太

の係に分かれていた。ぼくは、お米係だった。 飯ごうすいはんは、火の係、カレー係、そしてお米係の三つ

火にかけてからも、たけるまでは、目をはなすことができない。 飯器でお米をたいている。すい飯器は、スイッチ一つでお米が のお米をといで、水を測り、火にかける。家ではいつも、すい たけるが、飯ごうでお米をたくには、火を起こすところからだ. お米のお仕事は、飯ごうを使い、お米をたくことだ。人数分

むらす。すい飯器と違い手間がかかった。いがしてきたら、ふたを開けて、中を確認する。そのあと少しふっとうしてきたら火が弱いところに移す。お米がたけるにお

まう。安敗していたらみんなのお昼ご飯を台無しにしてし安だった。失敗していたらみんなのお昼ご飯を台無しにしてし最後にふたを開けてみるまで、ちゃんとたけているか少し不

飯になった。カレーが完成して、みんなでお皿によそい、ようやくお昼ごがやいたご飯がたけていた。よかった、おいしそうにたけている。ドキドキしながらふたを開けると、そこには、ピカピカにか

「いただきます。」

なってしまった。
った。たくさんあったカレーも、お米も、あっというまに無くった。たくさんあったカレーと一緒に食べるとさらに美味しかて、ほんのり甘くて、おどろくほど美味しかった。次はカレーまず、お米だけを、一口食べてみた。ふっくらやわらかくまず、お米だけを、一口食べてみた。

ががんばったから食べられた、最高のお昼ご飯だった。切ったり煮たりしてくれたカレー係、そしてお米係、それぞれ暑い中、まき割りや火の調整をしてくれた火の係と、食材を

謝して、ピカピカにみがいた。(食べ終わった後は、美味しいお米をたいてくれた飯ごうに感

ってくれた。たいたお米って美味しいよね、上手にたけてよかったね、と言をいたお米って美味しいよね、上手にたけてよかったね、と言家に帰ってから、家族に、飯ごうすいはんの話をした。火で

のお米係は、ぼくだ。 今度、家族で飯ごうすいはんをしてみたい。もちろんその時

群馬県コンクール 金賞

毎月第三日曜日

太田市立太田小学校 6年橋本 詩音

「これ、ぜひ参加してみて。」

と書いてあった。かわいいイラストと共に、「子ども食堂」「毎月第三日曜日開催」友人はそう言って、一枚のチラシを私に手渡した。そこには、

と思った。と思った。なんだか楽しそうだなと思い、参加してみようらったチラシには、「食事を作りたい子ども募集」とも書いてらったチラシには、「食事を作りたい子ども募集」とも書いてみんなは、子ども食堂って知ってる?私は知らなかった。も

そうだ。そうだ。そうだ。



当日、まず受付を見てびっくりした。いくつもの箱の中に、当日、まず受付を見てびっくりした。いくつもの箱の中に、おすやトウモロコシなどの沢山の野菜。そして、大量のパン。3日、まず受付を見てびっくりした。いくつもの箱の中に、当日、まず受付を見てびっくりした。いくつもの箱の中に、当日、まず受付を見てびっくりした。いくつもの箱の中に、当日、まず受付を見てびっくりした。いくつもの箱の中に、

菜いためなどをみんなで作った。ハンバーグを焼く時にボロボ 発表することで、この取り組みがもっと広がるといいなと思う。 もこうけんできる、素晴しい体験の場だと思った。私がここで を学べる。また、SDGSの一かんとして、フードロス削減に ら料理に興味を持ってもらったり、みんなで食事をする楽しさ ういった取り組みをみんなに知ってもらうことで、小さい頃か そうなお弁当を時間内に作ることができた。みんなで一生けん 速くつめられるか相談しながらパックにつめることで、美味し た。盛りつけは、みんなでどうやってつめていくと、きれいに、 口になってしまった時には、となりの人にアドバイスをもらっ 緒に食べた。いろいろ話をしながら食べて、笑顔になった。こ だけではなく、寄付された野菜やパンも一緒に渡していて、フ 命作ったお弁当は、地域の人たちも買いに来てくれた。お弁当 ―ドロス削減に協力していた。自分も、他に参加した人達と一 この日は、ハンバーグと寄付された野菜を使った味そ汁や野 来月の第三日曜日も、今から楽しみだ。

群馬県コンクール 金賞

お米を食べること

前橋市立木瀬中学校 2年小林 澤中

「お米には神様がいるんだよ。」

「お米には人々の手間がかかっている。」

るお米が今も食べ続けられています。縄文時代から人々に食べられていたそうです。そんな歴史のあ私はそんなことをよく言われていました。お米は、はるか昔の

う言われました。
かお米を少し残そうとしていたときのことです。その先生にこまで好き嫌いせず食べるようにと言っていました。ある日、私先生はいつも食事を少し残している子がいたら、なるべく最後先生はいつも食事を少し残している子がいたら、なるべく最後がお米を少し残そうとしていたときのときでした。私のがおから、最初に、気付かされたのは、年長のときでした。私のから言われました。

かもしれないよ。」こにいる、たくさんの神様も、悲しくて悲しくて、泣いているのお米を少しだけ残したら、食べてもらえなかったお米も、そ「お米、一粒一粒にはね、たくさんの神様がいるんだよ。そ

神様がいるということを知って、残さずに頑張って最後まで食

と。私は、そのとき初めていつも当たり前に食べていたお米に、

かけとなった出来事でした。
かけとなった出来事でした。
ために預けてくれたのだから、最後まで残さずに食べよう、とために預けてくれたのだから、最後まで残さずに食べよう、とないのがから、最後まで残さずに食べよう、とべようと思えたのです。今考えるとその言葉は、お米にも私たべようと思えたのです。今考えるとその言葉は、お米にも私たべようと思えたのです。

の先生が話していたことでした。ある日、その話と似たような話を聞きました。それは小学校

一生懸命作っていたということなんだな、と改めてすごいことさんの手間をかけて機械もない時代でも美味しく食べるために書いてみると分かるそうです。確かに八十八という漢字がでてうのは、「米」の点を逆さにし、はらいの部分を切りはなしてうある漢字にもこめられているということは、それほど、たくうある漢字にもこめられているというといいました。八十八回という意味がこめられているといいました。八十八回という意味がこめられているといいました。八十八回というお光という漢字には八十八回もの手間がかかっているとい「お米という漢字には八十八回もの手間がかかっているとい

なんだと感じました。

昔から美味しく食べるために手間をかけ作られたお米だからることに感謝して、生活していきたいです。おがまず、奇跡です。このこともふまえて、お米を残さず食べるながまず、奇跡です。このこともふまえて、お米を残さず食べるがまず、奇跡です。このこともふまえて、お米を残さず食べるがまず、奇跡です。このこともふまえて、お米を残さず食べるることに感謝して、生活していきたいです。

群馬県コンクール 金賞

日本人がかかっている米依存症

館林市立第二中学校 3年 飯塚 獎太

要因だと思う。けれど、私はお米が特別好きではないと思ってろう。私たちの家族、親戚友達など誰からも「お米が嫌い」とろう。私たちの家族、親戚友達など誰からも「お米が嫌い」と日本人なら誰しもが好きなお米。嫌いと答える人は少ないだ



足するから、の前にやっぱりお米が本当に好きであることを思 化物を摂れると思っていた。しかし、栄養が~だから、~が不 芋やパン、麺類を組み合わせれば飽きずに、ほどよい量の炭水 多いご飯をたくさん食べてしまうと、食べられるおかずと量が いた。私は、ご飯を食べる量を減らして肉や魚、野菜から栄養 い知ることになった。 べられなくなってしまうと感じたからだ。また、炭水化物なら 減り、たんぱく質の豊富な肉や魚、栄養のある野菜を十分に食 を摂ったほうが良いと思っていたのだ。なぜなら、炭水化物の

りに、パンやフライドポテト、マッシュポテトといったものが リアでは、オージービーフ、フィッシュアンドチップスといっ た肉や魚がメインの食卓だった。当然、ご飯はなかった。代わ に行った。そこでの経験がこの私の考えを変えた。オーストラ 提供された。これは、まさに私の理想とする食の形だった。 私は、今年の夏休みに、市の海外派遣事業でオーストラリア

解できても本能的には抑えられなかった。 ご飯がどうしても食べたくなってしまったのだ。理論的には理 理論的には合っているのかもしれない。実際、オーストラリア だ。それまでの、「ご飯は食べなくてもパンなどの小麦類で栄 の人たちはこの生活が毎日のことであるからだ。しかし私は、 養は補える」という私の考えが崩れた。確かに私のこの考えは めていたことがあった。それは「ご飯が食べたい」という衝動 週間が経ち、旅も終盤に近づいてきた頃だんだん気づき始

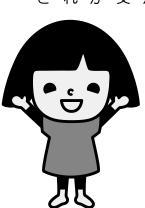
肉の下に見えるご飯にとてもわくわくした。別にその牛丼屋さ 日本に着いて真っ先に向かったのは、牛丼屋さんだった。お

ん食べていきたいと思う。

に行った友達も牛丼を買って食べていた。「やっぱり米だ」「米 うますぎる」などの声が聞こえてきて、私だけではなく皆、日 すごく良かった。馴染みのある日本のご飯はたまらなくおいし 通の牛丼屋さんだった。けれども、その普通の店の普通の味が う。いわば米依存症だと思った。また、一緒にオーストラリア 米を食べなかっただけでお米をどうしても食べたくなってしま んが特別高級で特別おいしいというお店だったわけではなく普 本人は米依存症だと思った。 かった。そのとき「お米が好きだな」と思った。一週間ほどお

そもそも本能的にお米抜き生活はできないことがわかったの 謝しなければならないと思った。 で、日本にいると当たり前のようにお米が食べられることに感 べるようにしたいと思った。炭水化物にはお米が必要なのだ。 ン、麺類だけで炭水化物を補おうとせずに、お米をしっかり食 欲するのだから。私はこのことを踏まえ、これからは、芋やパ せ米依存症なのだから。一週間お米を食べなかっただけで米を お米は私達の生活に欠かせないものだ。しかたがない。なん

当たり前になっていた。祖父 食べられる事に感謝し、これ のお陰で毎日おいしいご飯が しいお米を食べられることが からもおいしいご飯をたくさ 私の祖父は、農家でお米を作っている。私は、毎年毎日おい



お米

前橋市立清里小学校 1年松子 島 一近一海町

ほたるもいっぱいとんでいたそうです。 は、こどものころたんぼのそばのかわでおよいだそうです。 なつになると、いなごやとんぼやすずめもきます。おじいちゃいいて、そのあと、かえるのこえがきこえるようになります。 ぼくのいえのたんぼは、すぐそばにあります。だからまいに

うれしくなりました。そのあと、おじいちゃんとたんぼへいきられいうとおばあちゃんがふくをだしてくれました。おねえちゃんがので、あみをかけてくれました。かっこよくできたのでなったので、あみをかけてくれました。かかしもつくりたいとなったので、あみをかけてくれました。かかしもつくりたいとなったので、あみをかけてくれました。かかしもつくりたいというとおばあちゃんがふくをだしてくれました。おねえちゃんがんでかおをかけてできあがりました。かっこよくできたので、なんでかいで、あみをかけてくれました。かっこよくできたので、なんでかいで、あいいちゃんがほりばぼくが、たうえをしたいといったら、おじいちゃんがぽりばぼくが、たうえをしたいといったら、おじいちゃんがぽりばばくが、たうえをしたいといったら、おじいちゃんがぽりば

くあるくのがたいへんだったけどおもしろかったてす。ってはじめてたんぼにはいりました。ぬるぬるしてすべりやすていました。それから、おじいちゃんといっしょにはだしになました。たんぼのなえは、ぼくのくちぐらいまでおおきくなっ

百十一つぶありました。一ぽんめは百十七つぶ、二ほんめは、らって、かぞえました。一ぽんめは百十七つぶ、二ほんめは、なえを二ほんぬいていえにもっていき、ぱぱにてつだっても

こめをつくりたいです。
こんなにおいしいおこめができるなんてすごいです。
ぼくもおおすびはおいしいです。
まいにちなんつぶおこめをたべていいです。
まいにちなんつぶおこめをたべていいです。
まいにちなんのぶおこめをたべていいです。
ままがつくってくれた、し

群馬県コンクール 銀賞

おにぎりだいすき

高崎市立東部小学校 1年飯田 化一核合

がすきです。つもたべています。シャケのおにぎりにのりをまいてたべるのでもたべています。シャケのおにぎりにのりをまいてたべるのぼくは、おにぎりがだいすきです。がっこうにいくまえ、い

おにぎりをたべると、おいしくて、やさしいきもちになりま



すきです。 じんきなきもちもでてきます。だから、おにぎりがだいと、ゴールをたくさんきめられます。だから、おにぎりがだいさいっぱいはしれます。どようびのサッカーのときにたべるす。げんきなきもちもでてきます。やさしいきもちとげんきなす。げんきなきもちもでてきます。やさしいきもちとげんきな

て、おいしいです。 おこめにおにくのたれのあじがついています。ごまもついていもだいすきです。のりではなくて、おにくがまいてあります。せたおにぎりです。あと、ママがかんがえたにくまきおにぎりジャケのほかにもすきなおにぎりがあります。ふりかけをま

おこめをどうやってつくるのか、ママにきいてみました。ぼおこめをどうやってつくるのか、ママにきいてみました。ぼんです。おいしくださとおもいました。おこめをつくってくれて、おにぎりをつくるとき、ママはおいしくなめました。ぼくもおてつだいで、おにぎりをつくってくれて、おこめをつくもおてつだいで、おにぎりをつくらないようにしたいです。おいしてたべて、のこさないようにしたいです。おいってたべてくれました。また、おいしいおにぎりをつくってくれて、おこめをつくっているさいってたべてくれました。また、おいしいおにぎりをつくってかります。ぼくもおてつだいです。そうすると、ほんとうにおいしくなります。ぼくもおてのことばをいってみたら、パパとおにいちゃんがうまいといってたべてくれました。また、おいしいおにぎりをつくってみたいです。

群馬県コンクール 銀賞

かぞくみんなでたべるごはん

藤岡市立美九里東小学校 2年 小林 謡子人

ぼくと五人のきょうだいです。ぼくのいえは八人かぞくです。おとうさんとおかあさんと、

ぼくはすきなおかずがとどかなかったりするから、八人でごはんをたべると、テーブルがちょっとせまいです。

「いやだな。」

と思っていました。

せん。せまかった時のほうが、うれしいです。ブルは、少し広くなりました。でも、ぜんぜんうれしくありまになり、いえからいなくなりました。ごはんをたべる時のテー今年の春、一ばん上のおにいちゃんが山形の高校にいくこと

てしまうので、いつも三、四かいします。となりで見ていると、あっという間にたべおにいちゃんは、白ごはんをたくさんたべます。おかわりを

「すごいなあ。」

んをたべられるようになりたいです。と思っていました。ぼくもおにいちゃんみたいにたくさんごは

に、かぞくみんながそろうのでたのしみです。かぞくみんなが夏休みに、お兄ちゃんがかえってくるそうです。ひさしぶり

をたべたいです。みんなでそろったら、テーブルはせまくなるけれど、いっしょにごはん

「いただきます。」

るところも見たいです。とこえをあわせて言いたいです。おにいちゃんがいっぱいたべ

はやくかえってきてね。おにいちゃん。まってるよ。

群馬県コンクール 銀賞

生きるためのおにぎり

太田市立太田小学校 2年岩田 博都

「わあ、ちゃ色のおにぎり。」

う言いました。つづけて、はじめてお母さんの作ったみそおにぎりを見たとき、ぼくはそい。

「何でしおじゃなくて、みそをぬるのさ。」

と聞くと、お母さんは

つなものなんだよ。」「このおにぎりは、わたしのおばあさんからおそわったとくべ

そをぬった、みそおにぎりでした。ごはんを三かくににぎり、そのまわりすべてにうすくきれいにみと答え、ぼくにできたてのみそおにぎりをわたしました。白い

お母さんのお母さんに、ぼくのひいおばあさんのいえはのうかお母さんのおばあさん、ぼくのひいおばあさんのおばあさんのおばあさんのおりをみんなで大じにたべました。ひいおばあさんのおりをかんはぼくのおにきりをみんなで大じにたべました。ひいおばあさんのおが、すんでいた土地を田んぼにして、おこめを作りはじめました。七人兄弟を母親一人でそだてることはとても大へんだったので、とれたおこめをたいて、みぢかにあったみそをぬり、一人一つのみそおにきりをみんなで大じにたべました。ひいおばあさんのおりないおばあさんのおりないおばあさんのおりない。

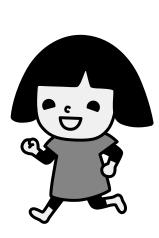
生きるためにひつようだった。」「白いごはんにだいずたんぱくしつのみそをぬったおにぎりは、

るための工夫をしていることにおどろきました。ず、のりをまくこともまれだったとう時、きちんとえいようをととよく言っていたそうです。さかなもにくもなかなか手に入ら

ていきたいです。

でいきたいです。

でいきたいです。そして、このおにぎりのことをつたえぎれないけれど、お母さんにおそわって、いつかじょうずに作り、あさんのことを思い出します。ぼくはまだおにぎりをうまくにいいが大すきです。そして、このおにぎりを見ると、ひいおばぼくは、お母さんの作る、少しあまくて少ししょっぱいみそお





お米のせい長を調べてみて

高崎市立東部小学校3年田中 涼乃

れるお母さんも毎日こんな気持ちなのかなと思いました。べるくらい、お米が大すきです。さい近は、料理を作る事にもけど、家ぞくにおいしいねととてもよろこんでもらえてわたしけど、家ぞくにおいしいねととてもよろこんでもらえてわたしけど、家ぞくにおいしいねととでもよろこんでもらえてわたしけど、家ぞくにおいしいねととでもよろこんでもらえてわたしけど、家ぞくにおいしいねととでもよろこんでもらえてわたしけど、家ぞくにおいしいねととでもよろこんでもらえてわたりである。

そんな大すきなお米が、どのようにそだつのか知りたくなり、るなと思いました。
まず、わたしはお米を作る時は、田んぼにそのままたねを植た、苗を田んぼに植えただけではお米はできず、田んぼの水のりょうの調整やざっ草をぬくなどの事も知りました。 育苗箱というするないように気をつけてお水をあげているので、にていりくさらないように気をつけてお水をあげているので、にていりくさらないように気をつけてお水をあげているので、にているなと思いました。

お米の事を調べてみて、お米を作る事が思ったいじょうに大四十六本くらいのいねがひつようだという事もわかりました。せ十つぶほどのお米がとれるので、おちゃわん一ぱい分は数が、やく三千二百五十つぶくらいあるという事です。わたし数が、やく三千二百五十つぶくらいあるという事です。わたし

J. L.。 しゃをしながら、これからもたくさんお米を食べたいと思いまへんだとわかりました。お米を作ってくださる農家の方にかん お米の事を調べてみて、お米を作る事が思ったいじょうに大

群馬県コンクール 銀賞

ぼくのお米づくり

くのはみてくい

渋川市立津久田小学校 3年 宮内

瑠久

やって出来るのか気になっていました。というな食べてもあきません。ぼくは大すきな米がどう食べてしまいます。ごはんは、あまみがあって、もちもちしてすきです。いん食店に行っても、おかずより先にごはんだけをするけん。これの食べてもあきません。ぼくは大すきな米がどうです。色いろな食べ方があって、おすぼくは、お米が大すきです。色いろな食べ方があって、おす

きょ年近所の家から「田植えであまったお米のなえがあるけ

たイネが、七月になるとどんどんのび、八月にほが出て、花がいたら引っこぬきました。はじめのころは少ししかのびなかっえをし、毎日朝と夕方に水を見たり水をあげたり、草が生えてっぽうスチロールで育てることにしました。土と水を入れ田植ど、育ててみる?」と言われ、ぼくはうれしくて、バケツとは

「おいしくなあれ。」と言いながらほしました。 「おいしくなあれ。」と言いながらほしました。 一生けんめいかりました。 作ってお米は、とてもおいしくて、みんなえがおになりました。 がりました。 作っておれて、何日もぼうでつつきもみがらをとり、 げん米にしました。 がりました。 作っている人たちのだと思います。 ぼくは今年、 たねもみから育てないて、 今白いかわいい花がさいています。 お米は体を作ってくれるだけではなく、 みんなをしあわせにしてくれます。 これからも感しゃして、 食べたいと思います。 「おいしくなあれ。」と言いながらほしました。

群馬県コンクール 銀賞

おじいちゃんの石焼きビビンバ

伊勢崎市立赤堀南小学校 4年 奈良 成将

スがまでたいたご飯を食べてきました。お店で働いています。なので、ぼくは今までずっと、お店のガお店のとなりにあって、お母さんはおじいちゃんといっしょにぼくのおじいちゃんは、焼肉屋をしています。ぼくの家は、

ズメに食べられないように、まわりにはしらを立てて上にネッは、お米は花がさかないと思っていたのでおどろきました。スさきました。花はとても小さくて白いかわいい花でした。ぼく

トをかけました。ほがたれてお米が出来た時すごくうれしくて

早く食べたいと思いました。イネかりをして

とてもおいしいです。お客さんもて、味はかめばかむほどあまくて、食感はもちもちしていて、とてもおいしくたけます。たきたてのご飯はふっくらしていガスがまは、強い火力で一気にたくので出来上がりが早く、

「ここの店のご飯はおいしいね。」

と言って、よろこんでくれます。

で、幼ち園から帰ってくると、おばあちゃんといっしょに、よで、幼ち園から帰ってくると、おばあちゃんが氷を捨ててとお米を研ぎました。お店では、一度に三しょうのお米をたきます。三しょうは三十合と同じで、四千五百グラムです。家にあるすい飯器の十倍の量がたけると、おばあちゃんといっしょに、よいが入ったおけはとても重いので、おばあちゃんといっしょに、よいが入ったおけはとても重いので、おばあちゃんといっしょに、よいが入ったおけはとても重いので、おばあちゃんといっしょに、よいが入ったおけはとても重いので、おばあちゃんといっしょに、よいが入ったおけはとても重いので、おばあちゃんというというにある。



ほど気持ちよかったです。りをさわっているような感じでおもしろかったです。冬は水がりをさわっているような感じでおもしろかったです。冬は水がっに指を丸めて、大きく、す早く手を動かします。校庭のじゃ

ず、での前、ぼくのたん生日のお祝いに、おじいちゃんが石焼きで、の前、ぼくのたん生日のお祝いに、おじいちゃんが出た。生まれて初めておこげを食べました。生まれて初めておいに、ビビンバの具も全が出てきました。生まれて初めておこげを食べました。ビビンバの見も全が出てきました。生まれて初めておこげを食べました。とじいがの異も全でででいたができました。生まれて初めておこげを食べました。思わないに、おじいちゃんが石焼きで、この前、ぼくのたん生日のお祝いに、おじいちゃんが石焼きず、

「なにこれ!最高においしい!」

なりたいです。

「大にこれ」
「おにこれ」
「おいまれ」
「おにこれ」
「はいこれ」

群馬県コンクール 銀賞

わが家のチャーハン名人

安中市立安中小学校 4年 掛川 結翔

のは、いつもチャーハンです。んが仕事でいない時だけご飯を作ってくれます。お父さんが作るんです。お父さんは、ふだん料理はしないけど、たまにお母さわが家には、チャーハンを作る名人がいます。それは、お父さ

「なんでチャーハンなの。」とお父さんはチャーハンを作りながら言っています。ぼくは、「一人ぐらしの時、よくチャーハンを作っていたんだよ。」

ときくと、

んじゃん。」 「フライパン一つで野菜もたまごもお肉も入って、栄養まんて

なんだろうと思いました。作れて、栄養があって、おいしいなんて、なんてさいこうなご飯と答えてくれました。ぼくはそれをきいて、チャーハンはすぐに

パンに油をひいて、ご飯と材料をいためます。味つけは、しおナーをみじん切りにして、ご飯とたまごをまぜました。フライー人で作れるようになりたかったからです。まず、ねぎとウインンを作ろうと思いました。なぜなら、自分でもさいこうなご飯をお母さんが仕事でいない時、ぼくは、お昼ご飯に、チャーハ

に食べさせてあげました。ぼくのかんぺきなチャーハンをみんなけの量もかんぺきでした。ぼくのかんぺきなチャーハンをみんなながら大成こうでした。チャーハンは、パラパラにできて、味つこしょうとしょう油です。お皿にもりつけて、食べてみたらわれ

お父さんは、

と言いました。ぼくは、お父さんが分かったことにびっくりしま「かんぺきだね。お父さんのひ伝の作り方でしょ。」

るんだよ。」
「お父さんの作り方だとかんたんにパラパラチャーハンができ

した。お父さんは、

もパラパラにできました。とおしえてくれました。お父さんの作り方は初めて作ったぼくで

えてあげました。お母さんは、お母さんが帰ってきた時、かんぺきなチャーハンを作れたと教

-ハン名人。」 「これからご飯がのこったときはチャーハンよろしくね。チャ

らね。 ててね。おじいちゃん、おばあちゃん、チャーハン名人がいくかんて言うのかな。と行くのがとっても楽しみになりました。待っでお米を作ってくれてる、おじいちゃんたちに作ってあげたらなと言いました。ぼくは、うれしくなりました。こんど、福島県

群馬県コンクール 銀賞

おにぎりとぼく

高崎市立東部小学校5年村十十日 文

今年の夏もとても暑いから熱中症予防になるのもあるけど、ぼごはんには塩もたっぷりがよく、のりもまかれてあるといい。 □に広がるしょっぱさと、くちゃっとした食感がたまらない。 ぼくはおにぎりが好きだ。特に好きなのは梅干し入り。梅干ぼくはおにぎりが好きだ。特に好きなのは梅干し入り。梅干

いる。やっぱりおにぎりはがんばりたいぼくにスタミナとパワいる。やっぱりおにぎりはがんばりたいぼくにスタミナとパワいるとフォワードの時はバンバンシュートを打って決めていてとてもかっこいいしあこがれている。ぼくも同じようにディフェンスしたり、シュートを決められるいで守っていく。見ていてれなくて、半分しか食べられないで行くと、すぐにおなかが空れなくて、半分しか食べられないで行くと、すぐにおなかが空れなくて、半分しか食べられないで行くと、すぐにおなかが空れなく、半分しか食べられないで行くと、すぐにおなかが空れなく、半分しか食べられないで行くと、すぐにおなかが空れなくて、半分しか食べられないで行くと、すぐにおなかが空れなく、半分しか食べられないで行くと、すぐにおなかが空れなく、半分しか食べられないで行くと、すぐにおなかが空れなくで、半分しか食べられないで行くと、すぐにおなかが空間がいる。やっぱりおにぎりはがんばりたいぼくにスタミナとパワいる。やっぱりおにぎりはがんばりたいぼくにスタミナとパワいる。やっぱりおにいる。



からできている。 食べているおにぎりは、おじいちゃんが作ってくれているお米で、ご飯はお米をたいた物だ。お母さんが作ってくれてぼくがーをくれているのだと思う。そのおにぎりはご飯をにぎった物

おじいちゃんはとても大事にいねを育てている。小さい時から田植えや草かり、いねかりをお父さんとお兄ちゃんと一緒にら田植えや草かり、いねかりをお父さんとお兄ちゃんと一緒にがインを動かし、通ったところのいねがかられて無くなり、大がインを動かし、通ったところのいねがかられて無くなり、大がるさとおこずかいをもらえたりする時もあり、大好きなミニカーを買えたりするととうれしくてたまらない。またがんばろうと思う。働くってこういうことなのかな、と思うと、ぼくも好きなことを仕事にできたらいいな、とも思う。

つとおいしいはずだ。

で、そしてみんなの分もおにぎりを自分でにぎってみたい。きずは秋においしいおにぎりのための新米のいねかりをがんばるで、お手伝いが出来るようにしたいと思う。まおじいちゃんも年をとってだんだんお米を作る作業が大変なおじいちゃんも年をとってだんだんお米を作る作業が大変な

群馬県コンクール 銀賞

みんなでつなげ米作り

高町立駒寄小学校 5年高小野 有小弘

ても元気だ。

田植えをする前の小さな苗はぼくの手の平くらいの大きさでといばのすぐとなりだ。ぼくの家は、毎年祖父が米を作っている。がでたちの番だ。学校で田植えをする田んぼは、ぼくの家の田ばくたちの番だ。学校で田植えをする田んぼは、ぼくの家の田が、月十三日カレンダーに大きな赤丸。今日はぼくが楽しみに

なくてういてしまう苗がでてしまった。ぼくの家は機械で植えなくてういてしまうがいっせいに田植えをするから、真っすぐぼくたち五年生百人がいっせいに田植えをするから、真っすぐぼくたち五年生百人がいっせいに田植えをするから、真っすぐぼくたち五年生百人がいっせいに田植えをするから、真っすぐぼくたち五年生百人がいっせいに田植えをするから、真っすぐがでたりいてきてしまうからだ。最初は真っすぐに植えていた。といるでであるながでからだ。最初は真っすぐに植えていたででである。このを落として転ばないように気をつけながら、苗を二本からにからであるとのでは、横に一列に並んで、いっせいに苗を植えだした。こしを落として転ばないように気をつけながら、苗を二本からばくたちは、横に一列に並んで、いっせいに苗を植えていたのに少しずつみんながつかれてきて曲がったりないにもない。

はない。たくさんの小さな生き物の命も育てている。 は、「十月のしゅうかくまで元気に育て!」と心の中でさけんだ。 夏休みになって、ぼくは時々塾の帰り道に田んぼの稲の様子を見に行った。夕方の田んぼは稲に夕日が当たってとても美しい。 虫とカエルの大合唱が始まる時間だ。 トンボもとんでいる。 田んぼは、ぼくたちの食べるお米だけを育てているわけであ。 田んぼは、ぼくたちの食べるお米だけを育てているわけではない。 たくさんの小さな生き物の命も育てている。 ぼくはない。 たくさんの小さな生き物の命も育てている。 ぼくない。 虫とカエルの大合唱が始まる時間だ。 トンボもとんでいる 明んばは、ぼくたちの食べるお米だけを育てていると全部苗ったと思う。 五年生全員で三時間くらいかかってやっと全部苗ったと思う。 五年生全員で三時間くらいかられている。

ると ると ると ると のの家では、母が時々たきたてのあついご飯をにぎってく のの家では、母が時々たきたてのあついご飯をにぎっと水にぬらして、手の平に少し塩をのせてあ がた時もこの塩にぎりをぼくの口に入れる。左手は使わないからお はくの家では、母が時々たきたてのあついご飯をにぎってく

好きだ。」と言った。「おじいちゃんは、おばあちゃんの大きい三角塩むすびが大

大事にしてほしいと思う。としてまた、ぼくの孫もお米作りにきょうみをもって田んぼを楽しみに待ちたい。これからも、この田んぼを大事にしたい。一緒ぼくも田んぼを守って、孫たちにもお米作りを伝えたい。一緒の、ぼくが祖父と一緒にうちのお米を食べているみたいに、

群馬県コンクール 銀賞

かっこいい仕事 米農家

太田市立太田小学校 6年小 幡 彩葉

お米だからです。いうと、鹿児島県に住む祖父母が手間ひまかけて作ってくれたいて、心が温まるとってもおいしいお米です。それはなぜかと私が家で食べているお米は、とても温かくて、もちもちして

抱きました。とても大変そうだと思うと同時に、私はそんな祖父母に憧れを一回以上田んぼに行き草払いをしたり、雨がたくさん降ったといました。祖父母はそれを一年中やっているというのです。さは、水の量を調節したりと毎日毎日汗だくになって帰ってききは、水の量を調節したりと毎日毎日汗だくになって帰ってきるは、水の量を調節したりと毎日毎日汗だくになって帰ってきるは、水の量を調節したの苦労を目の当たりにしました。夏休み

こ。そして帰ってきたときの祖父母の顔が目覚ましいということんぼの作業をしている時、目がキラキラと輝いていることに。そして私は祖父母を見ていて気が付きました。祖父母は、田

る担い手不足や耕作放棄地の増加などの問題があります。実際そんなカッコイイ「米農家」という仕事。最近は高齢化によ



いました。えていて、もともとの田んぼの様子が想像できないほど荒れてがおらず、雑草が生い茂り、おっきな水たまりがあり、木も生に、ご近所の亡くなってしまった高齢の方の田んぼは、継ぐ人

私は、祖父母のような人達が少なくなってしまう、おいしい私は、祖父母のような人達が少なくなってしまう、おいいらされました。でも私は、負けないで祖父母のような米農家になろうと決れて、改めてとても大変な仕事なんだなと、思い知らされました。でも私は、負けないで祖父母のような米農家という仕事お米が食べられなくなるのがイヤで祖父母の米農家という仕事お出い、祖父母のような人達が少なくなってしまう、おいしい

「とってもうれしいよ。」

の祖父、祖母に最後に、私はいつもお米を作って送ってくれている、鹿児島県おいしさをかみしめて、大事に笑顔で食べようと思いました。そして私は、祖父母が大事に育ててくれたお米を、毎日毎日と、笑いながら言ってくれました。

と伝えようと思いました。「いつもありがとう。」



群馬県コンクール 銀賞

お米は元気の源

館林市立第九小学校 6年 二十七

朝陽

元気の源だとぼくは思う。みんなが大好きで一番たべている食べ物。このようなお米は、な人の協力があり生み出されて、いつも一番身近にある食べ物。ぼくの家の食卓には、毎日お米がある。そのお米はいろいろ

がいる。 ですの学校は、緑豊かで花々が美しく咲きほこる学校で、米でりかる。 には代かきや、田植え、農薬散布まで行う。秋は、成長を見ながら雑草を取ったり、冬の最初は、稲刈りをしたりする。 ひのような流れで春夏秋冬、米づくりをじっくりど学べる。 少しながら雑草を取ったり、冬の最初は、稲刈りをしたりする。 このような流れで春夏秋冬、米づくりをじっくりが学校でできるがら雑草を取ったり、冬の最初は、稲刈りをしたりする。 とがら独草を取ったり、冬の最初は、稲刈りをしたりする。 とがら独草を取ったり、冬の最初は、稲刈りをしたりする。 とがら独草を取ったり、冬の最初は、稲刈りをしたりする。 とびられている。米づくりが学校でできるがら雑草を取ったり、冬の最初は、稲刈りをしたりする。 といるが、ほぼ手作業で行うので、昔の人の気持ちがよくのような流れで春夏秋冬、米づくりをじっくりがき校で、米でりをはいからである。

ごくつかれてしまう。なのでいつも汗ビショビショでヘトヘトルをキャッチしたり、ボールをなげたりたくさん動くので、すぼくは、公式のドッジボールを習っている。走ったり、ボー

お米とともに育む毎日の幸せ

伊勢崎市立あずま中学校 1年 荒井 美柚

詰まっているかのようです。からです。また、家族の温もりや日本の文化が一つのお茶碗にんが心を優しく包みこみ、忘れていた笑顔を引き出してくれるをもたらしてくれる存在です。どんなにいそがしくても、ごは私にとって「ごはん」は、ただの食事ではなく、人生に彩り

りが心に安らぎを与えてくれました。てのごはんを一□食べると、□の中で広がる甘さとほのかな香に広がると、自然とみんなが食卓に集まってきました。炊きた夜になると、お母さんが炊いてくれたごはんの香りが家の中

えのない思い出になりました。るごはんは、その瞬間が永遠に続いてほしいと願うほどかけがる時間は何よりも楽しい時間で、みんなで笑い合いながら食べた。友達と楽しく話しながら、おにぎりやごはんを一緒に食べまた、学校の友達とお弁当を食べる時もお米が必ずありまし

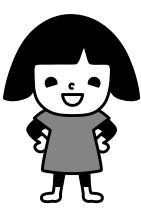
お正月には、おせち料理と一緒に食べるお米は特別で、一年のになりました。新しいお米の炊きたての香りは、格別でした。の稲穂が実る新米の時期なると、いつも以上にごはんが楽しみそして、お米は季節や行事に深く結びついています。黄金色

米を元気の源だと思っている。

***たいで、「おかわり」と言ってもう一つ食べた。だからぼくはおいっで、「おかわり」と言ってもう一つ食べた。だからぼくはおおすびを一つ作ってくれた。そして、その塩むすびをたべるといすがを一つかれていて元気が全然なかったので、お母さんが塩になって帰って来る。ある時、ドッジボールが終わって帰って

つもお米は人を見守っているくらい身近にあると思う。 お米は身近なところにある。 スーパーに行ったら一度は目にお米は身近なところにある。 スーパーに行ったら一度は目にお米は身近なところにある。 スーパーに行ったら一度は目にお米は身近なところにある。 スーパーに行ったら一度は目にお光は身近なところにある。 スーパーに行ったら一度は目に

美味しいと言うだろう。だからぼくは、お米は、元気の源だとでも、お米は人にとって不可欠な存在であると思う。家族と食があったり、お米の身近さを知っていたりする。ふだんの生活があったり、お米の身近さを知っていたりする。ふだんの生活のように、ぼくは米づくりの体験をしたり、感謝の気持ち





常から少し離れた特別なひとときでした。 健康と幸せを願いながら、普段会えない親族と話す時間は、日

だか元気が出てきます。私は改めてごはんは日常に欠かせない テスト勉強で夜おそくまで勉強をしているとき、疲れてしまっ 忙しい日々の中で食卓を囲む時間は、家族が一つになれる瞬間 パワーの源なんだなと思いました。 蔵庫に残っているごはんを温めて、海苔と一緒に食べるとなん た時でも少しだけごはんを食べると心がほっとします。 特に冷 はんを一緒に食べることで家族の絆がさらに強くなりました。 たごはんには、愛情がつまっていることを感じました。そのご 時には悩みも、自然と話すことができました。親が炊いてくれ で、ごはんを食べながら、学校であった出来事や友達との話 また、ごはんを食べると気持ちが落ち着くということです。 お米は、またコミュニケーションの架け橋でもありました。

や友達との絆を思い出すことができます。 私の成長の軌跡がつまっています。お米を食べるたびに、家族 んだけど、その一粒一粒に家族の思い出や日本の文化、そして お米は、私の中で特別な存在です。何気なく食べているごは

ごはんを食べることで、私は自分自身と家族のつながりを大切 にしていきたいと思います。 米は私たちの生活の中心にあるでしょう。毎日、お米を炊いて、 将来、私が大人になり、自分の家族をもった時も、きっとお

ご飯は、私たちの体を支える栄養源であると同時に、心を豊か お米というシンプルなものには、計り知れない力があります。 お米は、ただの食材ではなく、私にとって人生の一部です。

> にしてくれる存在です。私はこれからも家族との食卓を大切に 代に伝えていきたいです。 もにご飯を食べる時間の中で感じる温かさや安心感を、次の世 していきたいです。日々の忙しさに追われる中でも、家族とと

群馬県コンクール 銀賞

おにぎりと僕

邑楽町立邑楽南中学校

1 年

竹 澤

依吹

母も子どもの頃、祖母の祖母に生味噌おにぎりを握ってもらっ くさんしてあげたいと思いました。 や孫ができたら、生味噌おにぎりを作ってあげ、思い出話をた 活動のことを話している時間が大好きです。僕も将来、子ども そして、祖母の愛情がたくさんつまった生味噌おにぎりを食べ れます。その中で僕は、生味噌おにぎりが一番大好きです。祖 時、祖母が僕と姉に、昆布や鮭など色々なおにぎりを握ってく が一番好きです。僕が大好きなおにぎりは三つあります。 ながら、祖母の子どもの頃の話や、僕の学校生活のことや、部 たそうで、思い出のたくさんつまった味だと教えてくれました。 僕はお米が大好きです。お米を使った料理の中で、おにぎり 一つ目は祖母が握ってくれたおにぎりです。小腹が空いた

節したり時間を計ったり、匂いを嗅いで焦げてないかと色々と見ていなければいけません。見ているだけでなく、火加減を調えていなければいけません。見ているだけでなく、火加減を調えていなければいけません。見ているだけでなく、火がおにぎりを握ってくれます。父の握ってくれるおにぎりの中で、わかめおにぎりが一番好きです。父はお父さんおにぎりの中で、わかの違った四つのおにぎりを握ってくれます。そのおにぎりの大きなおにぎりは、キャンプの焼き肉おにぎりです。僕は小学好きなおにぎりは、キャンプの焼き肉おにぎりです。僕は小学好きなおにぎりは、キャンプの焼き肉おにぎりです。僕は小学好きなおにぎりは、キャンプの焼き肉おにぎりです。僕は小学好きなおにぎりは、キャンプの焼き肉おにぎりです。僕は小学分でご飯を炊きました。家ではお米を研いで炊いますが、キャンプでは、飯ごうに研いだお米を入れて、木に火をつけて炊きます。しかも、炊いているときは炊きすぎないようにしっかりと見ていなければいけません。見ているだけでなく、火加減を調けてお出かけする時、母がおかずを作ってくれて、父がおに持つてお出かけする時、母がおかずを作ってくれるおにぎりの中で、わぎりを握ったりがある時間が大好きです。父のおにぎりです。休日、お弁当を持つてお出かけする時にありた。

りにするとさらに美味しくて感動しました。分で炊き上げたご飯はとても美味しかったです。焼き肉おにぎら離して蒸らすことも必要です。こうして手間暇をかけて、自ているか心配でドキドキします。炊きあがったら飯ごうを火か大変です。途中で蓋を開けられないので成功しているか失敗し

張り、大きく成長できるようにたくさん食べたいと思います。美味しいご飯が食べられるように色々と料理が出来るように頑れた方に感謝をして残さずに食べていきます。また、自分でもさんあります。お米を作ってくれた農家の方、料理を作ってくこれからの人生の中でもおにぎりを食べる機会はきっとたく

群馬県コンクール 銀賞

あたたかいご飯

前橋市立木瀬中学校 2年

鳥

潟

向

から我が家がずっとやってきたことです。「家族全員で揃って夕ご飯を食べる」それが、僕が生まれた時

って、落ち込んだり、下を向いてしまうことがあっても、「今日めにあたたかい料理を作ってくれています。学校で嫌なことがあな気持ちにする力があります。母はいつだって、僕たち家族のた母の作るご飯には、人を笑顔にする力があります。人を幸せ



年生となった今でも自然と笑みが溢れてきます。の夕ご飯はなんだろうな」というふうに考えただけで、中学二

り、その時に言葉に表せないような温かい気持ちになることが とを知りました。自分の努力が、苦労が報われた時の喜びを知 を知りました。誰かを自分の料理で笑顔にすることができるこ 分の作った料理を「おいしい」と笑顔で食べてもらうことの喜び 絶するほど大変なのだろうなと、思いました。けれど僕は、自 に手間と時間のかかる作業で、これを毎日やるなんて、想像を 初めて僕は、料理の大変さと、毎日作り続けることができる理 今ある材料で、僕たちに作ることができる料理を考えました。 幸せそうに食べているからだと思います。 なで、食卓を囲って、「おいしい」「最高だ」などと言い、笑顔で 毎日のようにできるのは、食べる側である僕たちが、家族みん できました。料理を作ることは非常に大変だけど、母がそれを 由に気づきました。料理を作るということは、自分の予想以上 結局僕たちはそこで、スープとチャーハンを作りました。その時 ました。まずは献立をたてることから始める必要がありました。 した。だから、当時の僕は、妹と協力して料理を作ることにし 僕が小学校中学年のある日、母が体調を崩したことがありま

きな力になるということに、自分で料理を作ったことで気づきま気持ちを伝えるだけでも、料理を作る側からしたら、すごく大とは少なくても、母のご飯を笑顔で食べて、「おいしい」というとは少なくても、母のご飯を笑顔で食べて、「おいしい」というとは少なくても、母のご飯を笑顔で平然とそれをやってのことだと思います。にも関わらず、笑顔で平然とそれをやってのことだと思います。にも関わらず、笑顔で平然とそれをやってのことだと思います。

て気づくことができました。した。自分で料理を作り、その大変さと喜びを知ったことで初め

そして幸せな気持ちにしてくれるのだと、僕は思います。いものをつくりたい」という想いなのではないでしょうか。そのいものをつくりたい」という想いなのではないでしょうか。そのいものをつくりたい」という想いなのではないでしょうか。そのになったとしても、一番大切なことは、「だれかのために、おいしたとえ料理が苦手で、できた料理の味が思ったものと違うもの

では、食べる人を笑顔にしてくれる母の料理が大好きです。そのちの母の作るご飯は、世界一です。 して、そんな母の料理も、家族「みんな」で食べる時間が大好きです。その時間は、世界中のどんな奇跡の瞬間よいけません。家族「みんな」で食べる時間が大好きだからです。その時間は、世界中のどんな奇跡の瞬間よいがないです。とれる母の料理が大好きです。そのちの母の作るご飯は、世界中のどんな奇跡の瞬間よっちの母の作るご飯は、世界一です。



群馬県コンクール 銀賞

命をつなぐ米

太田市立藪塚本町中学校 2年根本 郁海

祖母の家に行くと、まず仏壇に手を合わせる。私が生まれる は日の家に行くと、まず仏壇に手を合わせる。私が生まれる を表える。祖母から何回か聞いた話が、頭の片隅に残っているのだ。いつもは「ふーん」と流すところだが、この日は聞いているのだ。いつもは「ふーん」と流すところだが、この日は聞いているのだ。いつもは「ふーん」と流すところだが、この日は聞いているのだ。いつもは「ふーん」と流すところだが、この日は聞いているのだ。いつもは「ふーん」と流すところだが、この日は聞いているのだ。いつもは「ふーん」と流すところだが、この日は聞いているのだ。いつもは「ふーん」と流すところだが、この日は聞いているのだ。というはいっというにはいる。私が生まれるものだ。いつもはいっというにはいる。私が生まれるものだ。いつもはいっというにはいる。私が生まれるものだ。いつものではいる。私が生まれる

「闇米って何だっけ?」

「大事なことだから、よく聞いてごらん。」

また、祖母の長い語りが始まった。

つているから、自分もやろうという感覚だろう。曽祖母は、生買っている。決められた販路でない米を買いに行った。他の人もかの米だけでは足りなかった。周りの人は、農家からこっそり米をの米だけでは足りなかった。周りの人は、農家からこっそり米をの対象だ。それでも、曽祖母は闇米を買いに行った。他の人もかの対象だ。それでも、曽祖母は闇米を買いに行った。他の人もかの対象だ。それでも、曽祖母は闇米を買いに行った。他の人もかの対象だ。それでも、曽祖母は闇米を買いに行った。他の人もかの対象だ。それでも、曽祖母は常と関いているから、自分もやろうという感覚だろう。曽祖母は、生祖父は、終戦から二年後の昭和二十二年、熊本県水俣市に生祖父は、終戦から二年後の昭和二十二年、熊本県水俣市に生

ると思ったところ、

ると思ったところ、

の入った風呂敷が見えてしまった。すぐに警察が来て、もう捕まる祖父の尻の下に米が入った風呂敷をくくりつけて、羽織りで隠して走った。こうして、曽祖母は繰り返し闇米を買いに行ったそうだ。それでも、毎回うまくいったわけではない。あるとき、曽山母は駅で気がゆるみ、祖父をおんぶし直した。そのとき、曽山母は駅で気がゆるみ、祖父をおんぶし直した。そのとき、曽は母は駅で気がゆるみ、祖父をおんぶし直した。そのとき、曽は母は駅で気がゆるみ、祖父をおんぶし直した。そのとき、常は母は駅で気がゆるみ、祖父をおんぶし直した。そのとき、常は母は駅で気がゆるみ、祖父をおんぶし直した。そのとき、常は母は駅で気がゆるか、祖父をおんぶし直した。そのとき、常は母は駅で気がゆるか、米を没収されるかど、警察に見つかったら、

「小さな子がおるとにかわいそうやなかか。」

と周りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと周りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと周りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと同りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと同りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんとのの時に何度も足を広げて米を挟んだ。その結果、がに股になり、の時に何度も足を広げて米を挟んだ。その結果、がに股になり、の時に何度も足を広げて米を挟んだ。その結果、がに股になり、と問りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと問りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと問りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと問りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと問りの人が言い、見逃してもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと問りの人が言い、見述してもられてもらえたそうだ。祖父は、赤ちゃんと問りの人が言い、見逃してもらえただろうか。

話が途切れると、私は祖母に聞いた。

「おばあちゃんはお米に困らなかったの?」

する。

丈夫だったと言った。生まれた環境の違いが、人生を大きく左右
祖母は祖父と同じ年に鹿児島県で生まれたが、親戚が農家で大

曽祖母は、小卒で働き、十代で結婚、二十代で子供を産んだ。



てのお米はどんな存在だろうか。では、私は?私にとったがらない日々を暮らしていた人たち。その時代の人にとっても分からない日々を暮らしていた人たち。その時代の人にとってとは対照的に、いつ餓死してしまうかも、明日を迎えている。それは当たり前だったと思うと、心が痛んだ。私たちは、当たり前のは当たり前だったと思うと、心が痛んだ。私たちは、当たり前のでのお米はどんな存在だろうか。

人の命を救ってきたのだろう。
昔から、日本でも世界でも、未来への希望となって、たくさんの闇米を買ってまで育ててくれた曽祖母に感謝して、お米はきっとが不自由でも、曽祖母を責めることはなかったという。むしろ、

の「いただきます」のあいさつに、「ありがとう」を添えてみた。この日は、祖母が炊いてくれたつやつやのごはんを見て、いつも友達など、自分につながる人たちを生かしてくれる、命のかて。お米は私にとって、命をつないでくれるもの。先祖や家族や



群馬県コンクール 銀賞

お米離れを防ぐために

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校3年子藤こまち

しょうか。おそらく、パンや麺類の方が多いという人もいるのではないでおそらく、パンや麺類の方が多いという人もいるのではないでます。皆さんの食事の主食は、どれであることが多いですか。現代の日本では、ご飯やパン、麺類など、様々な主食があり

れます。 現在日本では、「お米離れ」が問題となっています。お米離れが起きてしまう原因としては、食生活の多たが、現在では、その半分以下の約五〇キログラムまで減少したが、現在では、その半分以下の約五〇キログラムまで減少したが、現在では、その半分以下の約五〇キログラムまで減少したが、現在では、その半分以下の約五〇キログラムまで減少しています。お米離れています。お米離れます。

の文化や伝統に深く根付いています。例えば、お正月のお節料的な食生活を支える重要な食べ物なのです。また、お米は日本ることで、バランスのとれた食事をとることができます。健康栄養価が高く、様々な栄養素を含んでいます。お米を主食とすお米は、日本の食文化や生活に欠かせないものです。お米は、まず、お米がなぜ大切にされているのか、考えてみました。

もらうといったことも必要だと思います。 ないと感じました。そのために、お米の消費を促すような呼び も私たちがこの文化を伝承していくべきではないでしょうか。 正月のお餅やお寿司が食べられなくなるかもしれないのです。 域の伝統的な農業文化が失われてしまう可能性もあります。お 地域経済にも悪影響が出てしまう可能性があります。また、地 す。また、お米の生産は日本の農家においてとても重要です。 理やおにぎり、お寿司など、様々な料理にお米が使われていま めに、学校などを利用して、お米について知り、興味を持って 良さなどを伝えるのです。また、お米の文化を後世に伝えるた かけをすることが大切だと思いました。例えば、お米の魅力や 影響を知り、日本のお米の文化を大切にしていかなければなら 日本の稲作農業はずっと受け継がれてきたものです。これから か。まず、お米の需要が減少することで、農家の収入が減り、 であったり、経済的な発展につながるということに驚きました。 がるのです。お米は健康面を支えているだけでなく、伝統文化 お米の生産を支えることは地域や社会を発展させることにつな 私は、お米の重要な役割や大切さ、お米離れによる社会への では、お米離れが進むことで、どんな影響があるのでしょう

らこそ伝えていくことが大切だと思うのです。お米は健康や経 ます。今現在の生活を見直して、お米をあまり食べないと感じ 米の価値を再認識し、感謝の気持ちを持つことが大切だと感じ 済、文化といった様々な面で重要な役割を果たしています。お 見することができました。米は日本の文化でもあります。だか 私は、お米について調べたことで、お米の魅力や良さを再発

> ている人は、自分の生活を見直して、お米を日常の生活に取り 入れていきませんか。

群馬県コンクール 銀賞

ごはんのありがたみ

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 3年 内山

実咲

大きく二つの経験があります。 た」を人より丁寧にするようにしています。その理由としては 私は、ご飯のときの「いただきます」と「ごちそうさまでし

って帰り、食べました。自分たちが関わったというのはもちろん 持ちで溢れました。 私たちは精米まで終わったそのお米を家に持 段は農家さんが丁寧に育ててくれていたことを感じ、感謝の気 間です。しかし、みるたびに成長していっている稲を見て、普 が協力してくれていました。私たちが参加したのはほんの数時 米作り体験は、長期間にわたる体験で、田植えや脱穀の手伝い 大きくなったことで、いつもより何倍も美味しく感じられまし ではあるのですが、農家さんに対する感謝が今までよりとても などをしました。小学校の隣に田んぼがあり、そこの農家さん 一つ目は、小学校高学年の時に、米作りの体験をしたことです



出の家では、週に一日「カレーの日」があります。私はカレーが 大好物で、毎週その日を楽しみにしています。母がレトルト同 大好物で、毎週その日を楽しみにしています。母がレトルト同 大好物で、毎週その日を楽しみにしています。母がレトルト同 大好物で、毎週その日を楽しみにしています。母がレトルト同 がなかったので、連日父がお店からテイクアウトをしてくれて夕 で飯を食べていました。もちろん、「カレーの日」になっても母 のカレーは食べられません。そこでハッとしました。私は、いつ も母がご飯を作ってくれるのが当たり前になっていることに気づ も母がご飯を作ってくれるのが当たり前になっていることに気づ も母がご飯を作ってくれるのが当たり前になってからは、いっ も母がご飯を作ってくれるのが当たり前になってからな、 本くなると、とても恋しくなりました。あのカレーライスの味 が、急に懐かしく感じられました。母が帰ってきてからは、本 当に嬉しく、母の料理をかみしめて食べるようになりました。

私は今、中学校に通っています。学校の前には田んぼが大きくして、私が美味しいご飯を食べることができ、健康でいられる食べ物を作ってくれている農家さんも、料理を作ってくれている食べついる白米やカレーライスに、どれだけたくさんの想いがままっているのかを感じて、一口をいただくようになりました。いつもたくさんの人が関わってくれているのだと気づきました。いつもたくさんの人が関わってくれているのだと気づきました。いつもたくさんの人が関わってくれているのだと気づきました。いつもたくさんの人が関わってくれているのだと気づきました。いつもたくさんの人が関わってくれているのだと気づきました。いつもは、とれば、この米作りの経験や母への感謝が大きくなった経験を通

びに今までの経験を思い出してこう思います。景をみかけたり、跡を見つけたりします。そんなことがあるた広がり、季節によって違う景色を見せます。たまに農作業の風

「いつも私たちの命をつくってくれてありがとうございます!」

群馬県コンクール 銅賞

ごはんがだいすき

となれている。

前橋市立天川小学校 1年山本

梨瑚

れたしは、ママのつくったたきこみごはんがとってもだいすきです。あと、しおおむすびもだいすきです。おと、しおおむすびもだいすきです。おと、しおおむすびもだいすきです。おと、しおおむすびもだいすきです。おと、しおおむすびもだいすきです。おと、おこめのふしぎをはじめてしったときは、だいすきです。あと、おこめのふしぎをはじめてしったときは、だいすきです。あと、おこめのふしぎをはじめてしったときは、だいすきです。あと、おこめのふしぎをはじめてしったときは、パパたすきです。あと、おこめもいろいかわがあるとおもいませんでした。きかいにいれたらしろいおこめになりました。わたしは、それをみるのがたのしみです。ちゃいろいこめはげんまいとおした。きかいにいれたらしろいおこめになりました。わたしは、それをみるのがたのしみです。ちゃいろいこめはげんまいとおした。

おもいました。おこめはちいさいからママとパパとせんせいにおもいました。 おとつぶひとつぶのこさないようにおとうとにおしおむすっているひとがうれしいし、たいせつにつくっているからだとおもいます。だからごはんがおいしいとおもいました。 おとうとのほっぺたと、ようふくによくごはんつぶがついているからだとおもいます。だいすきなたきこみごはんとしおおむすびのでわたしもたいせつにたべるようにおとうとにおしえてあげんいです。あと、だいすきなたきこみごはんとしおおむすびのつくりかたをおしえてもらってわたしもつくってみんなにたべでもらいたいです。 みんながおいしくたべてくれるとうれしいでもらいたいです。 おこめはちいさいからママとパパとせんせいにおもいました。

群馬県コンクール 銅賞

おこめだいすき

太田市立太田小学校 1年長沼

里桜

があるのをしったとき、おかあさんが「あれがおこめだよ。」くえんまでいくあいだに、たんぼがあります。はじめておこめさいこうです。ほいくえんのころからすきです。いえからほいわたしは、おこめがだいすきです。しおをかけてたべるのが

になるまで、おじさんがずっとおせわをして、たいせつにされ こめがすきなこか。たくさんたべてるかい。」といってくれま それからも、おこめをみるのがたのしみで、おじさんにあうの といいましたが、くさがたくさんはえていたので、ふしぎでし うだったのでいっしょにはしってきもちよかったです。そし おきくなっていました。

あるいておこめをみながら、

となりに います。「あーおいしくてとまらない。だいすき。」 ているので、これからも、おこめをたいせつにたべようとおも て、それが、ちゃいろになったら、うえのほうにつぶつぶがあ とおとがして、なみみたいにゆれてウォータースライダーのよ も、もっとたのしみになりました。 おじさんにあえたときは「お ね。」といってにっこりとわらってあたまをなでてくれました。 おじさんは「そうかい、おこめがだいすきなのか。それはいい あさんが「このこは、おこめがだいすきなんです。」というと、 がいました。わたしは「こんにちは。」とあいさつして、おか ながれてるみずやそこにいるクモであそんでいると、 おじさん た。ほいくえんにいくときに、まいにちみてるとすこしづつお って、そのなかにおこめがあるとしりました。おいしいおこめ した。おこめのせがたかくなったとき、かせがふくと「こー。」





群馬県コンクール 銅賞

お父さんのおこめ

高崎市立北部小学校 2年 佐野 綾騎

じいちゃんとおばあちゃんが作ってくれているおこめです。田 ばあちゃんは、ひりょうが足りなかったからかもしれないって ました。ぼくは、お父さんがへただからだって言ったけど、お す。お父さんががんばって作ってくれたおこめは、おじいちゃ きょ年からぼくのお父さんがなえをうえて、いねをかっていま があります。けれど、おじいちゃんがびょう気になったので、 かがいっぱいになってしまいます。ぼくのいえのおこめは、お いつももっとたくさんたべなさいって言うけれど、すぐにおな 言っていました んのおこめにくらべると、すこしかたいおこめになってしまい んぼで、がんばってなえをうえているすがたを何ども見たこと ぼくは、たくさんのごはんがたべられません。お母さんが、

すごくおいしくかんじます。 ぼくがごはんをおかわりすると、 はんとお母さんが作ってくれたおかずをいっしょにたべると、 お姉ちゃんと楽しい話をしながら、お父さんが作ってくれたで て考えると、ごはんがモリモリたべられるようになりました。 へたくそなおこめだけど、お父さんが作ってくれたおこめだっ ぼくは、お父さんが大すきです。おこめ作りの一年生だから、

> くさんかむと、あまいことにも気づきました。 お父さんもお母さんもとてもよろこんでくれます。おこめをた

ごはんをたくさんたべて、大きくなりたいです。 ティーのように楽しいごはんタイムがおとずれます。お父さ かげで、まい日さい高のごはんがたべられます。これからも白 ん、おいしいおこめを作ってくれてありがとう。お父さんのお ぼくの前にならぶごはんは、まい日ごちそうで、まい日パー

群馬県コンクール 銅賞

おこめづくり

高崎市立南八幡小学校 2年

河 合

春樹

とおとうとといっしょに、たねからそだてました。はじめてい た。おこめができたときは、おとうとといっしょにしゅうかく ねが生えてきたときは、うれしくていそいでママにしらせまし のでうれしかったです。 しました。ほんのすこししかとれませんでした。だけどとれた ぼくは、おととしバケツでいねをそだてました。パパとママ

生えてきました。びっくりしました。ママが、 きょ年、バケツをそのままにしておいたらいねが三本くらい

「きょ年のおこめが、気づかないうちに地面におちて、そこ

から生えてきたんだね。」

りました。ママが、てました。おこめができてきたので、おとうとといっしょにとた。いねが生えてきたと気づいてからは、おとうとと水を入れと、言いました。ぼくはおこめがたねになるのだと気づきまし

「らい年のために、すこしのこしておこうね。」

した。ぼくはすこしとってうめました。といいました。なので、ぼくとおとうとはぜんぶとりませんで

「らい年も生えてくればいいな。」

と、思いました。

年も生えてきてほしかったです。ぼくは、こなかったのかは、わかりませんでした。ざんねんでした。今しかし、今年はいねが生えてきませんでした。なんで生えて

「たねをうめたからって、いねが生えてくるものではないん

ゝこ。と、思いました。おこめづくりは、むずかしいことがわかりま

たいです。そして、自ぶんがそだてたおこめをたくさんたべいです。むずかしいのだと思うけれど、トラクターをつかっていです。むずかしいのだと思うけれど、トラクターをつかってぼくは、バケツよりも大きいところでおこめをそだててみた



群馬県コンクール 銅賞

ぼくのお米

富岡市立額部小学校3年十二十三年

凜太朗

はありません。れるオムライスです。お米は、毎日食べます。お米を食べない日がらは、お米が大好きです。一番好きなのは、ママが作ってく

お米がすてられているなんて、なんとかしたいと思いました。クリすることがありました。日本では、一日に一人おちゃわん一クリすることがありました。日本では、一日に一人おちゃわん一

ようと思います。
米をむだにしないようにこれからは、ごはんをのこさずに食べります。そのお米は、「すてているんだな。」と思いました。おります。そのお米は、「すてているんだな。」と思いました。おお米をむだにしないためにぼくにできることはなにか考えまお

育ててくれた人の顔を思いうかべてごはんを食べれば、のこさずし、あつい中の作ぎょうもあってとても大へんだと聞きました。いなのに一人でお米を育てています。お米を育てるのは力がいるじさんが育ててくれたお米です。おじさんは、もうすぐ七十さそれから、ぼくのうちで食べているお米は全てしんせきのお



思います。
思います。
これからはお米を大切にのこさず食べようとさを知れました。これからはお米について色いろ調べて、お米の大切で、おじさんのお米作りの手伝いをしたいと思いました。食べられると思いました。それから、ぼくも大きくなってきたの食べられると思いました。それから、ぼくも大きくなってきたの

群馬県コンクール 銅賞

サクナヒメとお米作り

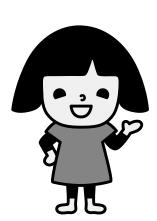
太田市立沢野小学校 3年 入江 智香

のます。 おたしは、「天すいのサクナヒメ」というゲームをして、おかます。 またてきとたたかう部分に分かれています。 お米作りにきょう味を持つことができ、またそのことについてもます。 またてきとたたかう部分に分かれています。 お米作りの部分では、田植え前のお米のせん別から、いねかりまでの作業をしては、田植え前のお米のせん別から、いねかりまでの作業をして、おっぽっぱんを食べる時にお米といっしょに食べるおかずを取いう晩ごはんを食べる時にお米といっしょに食べるおかずを取いう晩ごはんを食べる時にお米といっしょに食べるおかずを取いう晩ごはんを食べる時にお米といっしょに食べるおかずを取ります。

ました。えらぶことで、前の年より良いお米を毎年作っていくら、たねになる良いお米だけを選びます。わたしはびっくりしお米作りはせん別から始まります。前の年に取ったお米か

ことがすごいと思ったからです。次に「田おこし」をします。ことがすごいと思ったからです。次に「田おこし」をします。ことがすざいかありますので、注意深く見ておかないと、見逃してしまうことがありますので、注意深く見ておかないと、見逃してしまうことがありますので、注意深く見ておかないと、見逃してこで一番大変だったのは、肥料づくりです。なかなか良い肥料ができません。また毎日肥料をあげなければいけないので、とても大変です。いねが育ったら、「いねかり」そして「はさらした。最後に、せい米を行います。白いお米にするのには、水の量がけ」をして、いねをかんそうさせます。これも時間がかかりました。とても大変です。いねが育ったら、「いねかり」そして「はさいけをした。最後に、せい米を行います。のですが、石をとったり、全部をたがやしたり、ざったります。とても大変です。いねが育ったら、「いねかり」そします。とても大変です。いねが育ったら、「いねかり」そして「はさいねを値える準備です。ゲームの中ですが、石をとったり、全いないように、というというでは、大きにはいる。

米作りの大変さを考えています。ます。今は、そのそばを通るたびにいねの様子を見ながら、お米作りの苦労が分かりました。私の家の周りにも田んぼがあり、サクナヒメは楽しそうなゲームだと思って始めましたが、お



群馬県コンクール 銅賞

元気パワーをくれるごはん

前橋市立桃川小学校 4年久保璃沙

いいのになと思うくらいです。ろからずっと給食の中でごはんが一番好きです。毎日ごはんなら私の元気の元は、毎日食べるごはんです。私は、ようち園のこ

と思います。と思います。と思います。と思います。と思います。と思います。お肉やお魚など、どんなおかずにも合うのですごいなん、カレーライスやおすしなど、いろいろな味が楽しめます。ご私の家では、毎日ごはんを食べます。おにぎりやたきこみごは

私がピアノの発表会に行く日など大切な行事の日に、必ず食べるものがあります。それは、おばあちゃんのにぎってくれる、「みるものがあります。それは、おばあちゃんのではんのまわりにおみとにぎってくれます。きんちょうでかたくなっている私は、それなります。おばあちゃんは、「おばあちゃんの愛じょうがいっぱいつまっているみそおにぎりを食べれば、元気いっぱいがんばれるよ。」と、言ってくれます。このみそおにぎりのおかげで私は、それるよ。」と、言ってくれます。このみそおにぎりのおりにざってくれる、「みるよ。」と、言ってくれます。このみそおにぎりのおりにざってくれる、「みるよ。」と、言ってくれます。このみそおにぎりのあつができています。

米から元気がもらえた気がします。ととけ、やさしいお米のあまみがおなかにしみこんで、少しおやわらかいおせんべいだけは食べられます。口に入れると、すっなくなってしまいます。しかし、ふしぎなことに、お米で作った私が、かぜをひいたときなど、体調の悪いとき何も食べられ

作業をしているのを見かけます。おばあちゃんが、ぼがあります。毎年近くを通ったときに、農家の人が一生けん命られているのかふしぎに思いました。私の家のまわりには、田んこのように、いつも私に元気をくれるごはんはどのように作

「お米を作るには、八十八の手間がかかることから、米という字が作られたんだよ。そのくらい米作りは大へんなんだよ。」 すいがんばりたいです。そして、大きなパワーは、農家の人の八十八の手間から作られているんたなと思いました。 たくさんの手間をかけて私たちにお米を作っぱいがんばりたいです。そして、大きくなったら、今度は私がまた、いつも私のために、いろいろな工夫をして、おいしいごはんを料理してくれるお母さんやおばあちゃんに「ありがとう」を伝えたいです。これからも、ごはんをたくさん食べて、元気いるになりました。 また、いつも私のために、いろいろな工夫をして、おいしいごはんを料理してくれるお母さんやおばあちゃんに「ありがとう」を伝えたいです。 これからも、ごはんをだくさん食べて、元気いるに、かんばりたいです。 そして、大きくなったら、今度は私がでよいがんばりたいです。 そして、大きくなったら、今度は私がつばいがんばりたいです。 そして、大きくなったら、今度は私がつばいがんだよ。」



群馬県コンクール 銅賞

元気のみなもとは、白いお米!

邑楽町立高島小学校 4年 白石 主格

つけているのに何でだろう。」ぼくは考えてしまった。何度か体調不良になった。「早くねて、朝ご飯も食べて、気を試合や練習は大変で、熱中症になりやすい。この夏、ぼくもぼくは、サッカーをしている。暑いグラウンドを走る夏の

った。 このかつをしろうと、話を聞くと共通することがあいのでいる。ひみつをしろうと、話を聞くと共通することがあるでいるので、全然ばてない友達が

だよ!一によが好き!小さいころからたくさん食べるんですっごい、白米が好き!小さいころからたくさん食べるん

食べるようになったら体調くずさないようになったよ。」「パパに、サッカーやるなら白米を食えって言われて、二杯

そう、お米だ!

食べる。」ほどは食べていない。ぼくも、お米は毎日食べる。でも、「すごい食べる。」「二杯

物が七十七.六グラム血や肉・細ぼうを作るタンパク質が六・と、白米百グラムあたり、脳や体のエネルギーになる炭水化お米はそんなにすごいのか、気になって調べてみた。する

たり、体力が長もちしたりできるんだ!」と気づいた。他にる炭水化物が七十七.六グラムも含まれているから、集中しいろいろな栄養成分がふくまれていることがわかった。ししつが0.九グラム、、体の調子をととのえるビタミン・ミーグラム、エネルギー・細ぼうまく・ホルモンの材料になるーグラム、エネルギー・細ぼうまく・ホルモンの材料になる

もしれない。」と思った。すごいパワーだ。「水分も意外に多いんだ。だから、熱中症になりにくいのか

をぼくにくれることがわかった。んて考えたこともなかった。でも、お米はいろいろなパワーのまで、朝食にお米が出てきても、お米にパワーがあるな

だい。そのために、お米にパワーを分けてもらおうと思う。それい。そのために、お米にパワーを分けてもらおうという気が良べた。おいしくてまんぷくだったけど、その後やったサッカーでは、なんだかいつもよりシュートが強くうてた。「お米のおかげだ!」と思った。やっぱりお米はすごい。「お米のおかげだ!」と思った。やっぱりお米はすごい。「お米のおかげだ!」と思った。やっぱりお米はすごい。「お米のおかげだ!」と思った。やっぱりお米はすごい。「お米のおかげで、お米はすごいだったけど、その後やったサービをかけ、おいしくなるようにがんばって育てている。おりますが、まれば、サッカーの試合に出たい。良いプレーをして勝ちんなお米を食べられるなんてぼくはラッキーだ。

る体をつくっていこうと思う。これからもお米をいっぱい食べて、パワー全開、がんばれ

お米、よろしく!

群馬県コンクール 銅賞

ぼくの大好きなご飯

前橋市立石井小学校 5年 関 口 琉 成

で、ぼくが住んでいる家の近くでたくさんの田んぼをやっていで、ぼくが住んでいる家の近くでたくさんの田んぼをやっていぼくのおじいちゃんが作っています。おじいちゃんはお米農家ぼくはお米が大好きです。ぼくがいつも食べているお米は、

ろ遊びが出来るので毎年楽しみです。

では田植えの時にいとこと会えるし、田んぼに入ってどはこも手伝いにきます。家族みんなで協力して田植えをしませいのイネのなえがならびます。そのなえを育てて、六月に田 は年四月になると、おじいちゃんのビニールハウスにはたく

て、今でもどろに入れる田植えが大好きです。達と手で植えました。どろにはだしで入るのは気持ちが良くぼくは保育園でも小学校でも田植えをしました。その時は友

じる時もあるけれど、夏が来たんだと思えます。おいそがしです。朝早くから軽トラックに乗って田んぼに行くおいそがしです。朝早くから軽トラックに乗って田んぼに行くおいます。そのころになると、おじいちゃんは草かりにお夏になると、イネがぐんぐんと成長していくのを登校しなが

秋が近づいてくると、イネが黄色く色づいて来ます。赤とんるので楽しみにしています。
 和が近づいてくると、イネが黄色く色づいて来ます。

です。だからぼくはお米が大好きです。です。だからぼくはお米が大好きです。だからぼくはおいしいお米と、お母さんがおいしい料理にしてくれます。特にぼくの大好きなかった事や友達と遊んだ事を家族で食事をします。学校で楽しかった事や友達と遊んだ事を家族で食事をします。学校で楽しかった事や友達と遊んだ事を家族で食事をします。お正月になるおりいが作ってくれたおいしいお米を、ぼくのおじいちゃんが作ってくれたおいしいお米を、ぼくのぼくのおじいちゃんが作ってくれたおいしいお米を、ぼくのです。だからぼくはお米が大好きです。



群馬県コンクール 銅賞

ぱいのごはんには

太田市立城西小学校 5年 岸 勇

駕

た。でもたくさん売っているじゃないか。」といつも聞き流していわれるので「また始まった。ごはんなんて残したって、どこにごはんを見て祖母は言った。ぼくはごはんを残すたびにそう言末にしてはいけないよ。」と、ぼくの茶わんに半分以上残った「そんなに残すの?お米には神様が宿っているんだから、そ

農家の人はこんな大変な作業をしているのかと身をもって知っまの当人はこんな大変な作業をしているのかと身をもって知って移動しにくく、ずっと中ごしのしせいで作業し続けなくてはいるのも田んぼに入るのも初めてなのでドキドキしていた。初かでさわった苗は、ぼくの手のひら十センチメートルほどでふた。その苗を、どろの中に入り、決まった場所に一つ一つ植えた。その苗を、どろの中に入り、決まった場所に一つ一つ植えていく作業は、思った以上に大変だった。どろの中は足が重くて移動しにくく、ずっと中ごしのしせいで作業し続けなくてはでふるのも初めてなのでドキドキしていた。初からない。みんなどろまみれになりながら、一生けん命植えて、石の半分ほどを一時間かかってやっと植えることができたが、五年出が分けにくく、ずっと中ごしのしせいで作業し続けなくては、一つのである。ぼくは苗植えをといるのも間が、一生けんの値えて、初かるが、一生けんのが、五年出植え体験を行うというじゅ業だった。JA農家の方が、五年出植え体験を行うというじゅ業だった。JA農家の方が、五年出植え体験を行うというによりない。

ぼくが毎日見ている米として食たくにのぼるのだ。作業が一年通して行われる。そうして手間ひまかけて、やっとぶ、稲かり、だっこく、そしてたい肥を作り、土づくりをするはないのだ。春の田おこしに始まり、代かき、田植え、農薬散のだが、ぼくが一番おどろいたのは、米づくりは一年中行われた。この時期に、社会のじゅ業でも米づくりについて学習した

大切なものなのだろうと思う。
大切なものなのだろうと思う。
が過間後、ぼくたちの植えた苗も、いずれ収かくの時をむかえる。手間ひおどろき、苗がすくすく成長しているのを見てうれしくなった。おどろき、苗がすくすく成長していた。ぼくは苗の成長スピードにおいたがのせたけに成長していた。ぼくは苗の成長スピードに数週間後、ぼくたちの植えた苗の様子をみんなで見に行くと、

変わっていった。まえ」ではなくとてもありがたいことなのだと、ぼくの思いはした。米はどこにでもあるという「あたりまえ」は、「あたりいがたくさんこめられているのだと、今回の体験を通して実感ぼくが毎日あたりまえに食べているお米には、農家の方の思

も、ごはんの前で、「いただきます」と手を合わせる。ちを忘れずに、ということなのだと思う。だからぼくは、今日さんの人の手間と想いがこめられているのだから、感謝の気持ーだけでなく、一ぱいのごはんが食たくにのぼるまでにはたく「ごはんを大切にしなさい」というのは、ただの食事のマナ

「一ぱいのごはんにこめられた「いっぱいの想い」に感謝の

気持ちをこめながら。

おわり

群馬県コンクール 銅賞

ノーライス ノーライフ

前橋市立東小学校 6年 小林 十和子

私は、日本のお米は世界一だと思います。

れを一口ほおばると、全身で幸せを感じます。 シュワーという音とともに優しいかおりの湯気が私を包みこみ ます。そしてみえてくるふっくらツヤツヤのごはんのつぶ。そ お米が炊きあがって、炊飯ジャーのフタを開けると、シュワ

るという事を、高校生の姉が教えてくれました。おいしいの感 仕方ない事だと思います。 じ方は一人ひとりちがうので、外国人がこのように思うのは のお米を、Sticky(ねばねばして変)、と感じる人もい パエリア発しょうの地のスペインでは、日本のブランド米は不 した。おいしさが世界一と胸を張って言いたいところですが、 人気という記事を見た事があります。また、アメリカでは日本 でもふと、日本のお米の何が世界一なのだろうと思い始めま

ではきっと、お米を食べる量が世界一だろうと思い調べてみ

ると、世界一どころか、世界で五十位でした。日本はお米の国 と思っていたので、この結果にはおどろきました。

で す。 は、、日本のお米は世界一だと思う気持ちが世界一、という事 そして考えているうちに、私の答えが見つかりました。それ

ていました。 とがあります。ほかにもお米やごはんの歌がないか検さくして は世界一。米!《と熱くさけびながら歌っているのをきいたこ みると、たくさんのアーティストがお米への愛や感謝を歌にし 私は、びっくりするような名前のロックバンドが、日本の米

は必ず持っていきました。 リンなのだそうです。でも、それだけではなくお守りの意味も うです。アスリートにとってごはんは、体を動かすためのガソ ばれ〟の気持ちをこめてにぎった一口大のおにぎりを、大会に あるような気がします。陸上部だった姉も、お母さんが、がん 手がレトルトのごはんのパックを持っていくのを、テレビで見 今年はオリンピックがフランスで開催されましたが、日本の選 ました。中には、炊飯ジャーとお米を持っていく選手もいるそ お米への強い思いは、アスリートの世界にも感じられます。

を食べないとお肌のハリがなくなるので、一日二合食べると言 っていました。 美容の世界では、誰もが知っている美のカリスマが、ごはん

す。今年は、お米の生産量が少ない沖縄県の、ちゅらひかり、 も取り寄せて食べました。かおり、つぶの大きさ、食感などに 私は四年生の時、いろんな県のお米を食べ比べた事がありま



さあ、感謝して今日もいただこう。世界一のお米を!ん。農家のみなさんの努力の結晶なのだと思います。に差がある日本では、これは決して当たり前の事ではありませちがいはありますが、全部本当においしいのです。地域で気候

群馬県コンクール 銅賞

米 D G s

高崎市立東部小学校 6年島 田 一秒 希子

「あ、また残してる。」

の私は、そのようにしか考えていませんでした。ました。パンならまだしも、ご飯は食べにくいもんな。当時に米粒がついた状態で片付けようとしているのが目に留まり先生の言葉に私が振り向くと、クラスメイトの一人が、茶碗

なったようでした。
は毎年五年生が、この体験をします。苗づくりから、植えかは毎年五年生が、この体験をします。苗づくりから、植えか稲とは、文字通りバケツでお米を育てることで、私の学校でになりました。それは、バケツ稲を育てたことです。バケツしかし、あることをきっかけに、その考えが一転すること

半年ほどかけ育てたお米。学年全体でとれたお米の量は、

るのです。

お茶碗約六杯分でした。お茶碗六杯でもこれだけ努力したのお茶碗約六杯分でした。お茶碗六杯でもこれだけ努力したのお茶碗約六杯分でした。お茶碗六杯でもこれだけ努力したの

に、とてもおどろきました。 しかし、農家さんが一生懸命、大切に育てたお米が私の学しかし、農家さんが一生懸命、大切に育てたお米が私の学でも毎日捨てられています。以前、学校の授業でいたが分かりました。想像もできないほど多くの廃棄の日とがのお食でも毎日捨てられています。以前、学校の授業でいたが一生懸命、大切に育てたお米が私の学にかし、農家さんが一生懸命、大切に育てたお米が私の学

私がバケツ稲から学んだことは、育てることが大変というように、大切にしているのではないでしょうか。大に猫、ハムスターなど、いろいろあると思います。その動物はあなたにとって家族という存在であると思います。その動物はあなたにとっんも同じなのではないでしょうか。大に猫、ハムスターなど、紹に対しての農家さんの思いです。とつぜんですが、おうに、大切にしているのではないでしょうか。

べたいと思っています。そのためにできることはたくさんあこの農家さんが育ててくれたお米を私はなるべく残さず食

ると思います。

ず食べて、SDGsならぬ、米DGsをしていくよう、呼び ンジしてみませんか? かけていきたいと思います。みなさんも、米DGsにチャレ そのため、二学期からは、クラスのみんなに、給食を残さ

からの大きな課題でもあると、私は考えます。 お米を守り、食べればよいか。それは、私たち日本人のこれ 異常気象が進む中、どのようにして、日本の伝統でもある

群馬県コンクール 銅賞

お米とわたし・家族

新 井

前橋市立木瀬中学校

1 年

智貴

田園風景を見ていると、疲れが一気に吹き飛びます。 時々シラサギが遊びに来ているのを見かけます。そんなのどかな 米の季節がやって来たなと感じます。田んぼを見渡していると、 エルの合唱が始まります。カエルの合唱が始まるといよいよお 家の前には田んぼが一面に広がっています。田植えが始まると力 私の住んでいる町は自然に囲まれていて、緑がいっぱいです。

した。低い姿勢で作業するのは、とても大変だったけれど、終わ 私は小学生の時に、学校の授業で田植え・稲かり体験をしま

> その後はオムライスを作って食べました。自分たちで育てたお米 りが終わると農家の方が精米してお米を学校に届けてくださり 路の上に大の字に寝転んだことはとてもよい思い出です。稲か こんなにじつくり見たのは初めてでした。最初は白米で味わい 上がっていました。嬉しくて、ご飯の香りをかぎながらお米を一 き上がりの音が鳴り、炊飯器を開けた瞬間、熱い湯気とともに ました。家で調理をして食べました。自分でお米を研いで、水を った時はとても達成感がありました。終わったぁ、とみんなで道 だったこともあり、いつもより一段とおいしく感じました。 いろいろな方向を向いていました。毎日食べているお米ですが 粒一粒眺めました。当たり前ですが、一粒一粒違う形をしていて. おいしそうなご飯の香りがしました。白いつやつやのご飯が炊き 量り、ドキドキしながらご飯が炊き上がるのを待ちました。 炊

のおいしさを味わえなくなるから嫌なのだそうです。それを聞く 最高においしいと言います。おもちに何かつけると、もち米本来 つけません。ただのおもちを、何もつけずにそのまま食べるのが、 だけはおいしいものを食べたいと言います。そして、私の母はお と、本当におもちが好きなのだなぁと感じます。 いたそうです。おもちを食べる時は、きな粉やあんこなど何も もちが大好きです。小さい頃は、よく家でもち米からおもちをつ 私の母は新潟県の出身です。新潟といえば米どころです。お米

です。そんな時は、白米にふりかけをかけ、わかめご飯にして なると笑って言います。こんな私でも朝は食欲がないことが多い 日ご飯を三杯はおかわりをします。母は、お米がどんどんなく 私は中学生になり、今とても食欲があります。夕食では、毎



てもありがたいことです。ます。食欲がない時でも、食べられるものがあるというのは、と食べます。わかめご飯にすると、不思議なことに食欲がわいてき

くてはならないものです。このようにお米はとても身近で、また私たちの食生活にはな

今、そのお米が不足しています。ニュースでやっていたので実の、そのお米が不足しています。ニュースでやっていたが、による米の不作、米の生産人口の減少が米不足の原因のようです。これまでお米を普通に好きなだけ当たり前に食べていましたが、不足という事態になり、ますますお米の大切さを感じています。お米の生産がしっかりできるように、異常気象にならないようにあると思います。とのお米が不足しています。ニュースでやっていたので実の要であると思います。

粒大切に食べていきたいです。こと・農家の方に感謝しながら、お米をしっかり味わって一粒一しっかり取り組んでいきたいです。そして毎日お米が食べられる私は、大切なお米を守るためにも、自分でできる環境問題に



群馬県コンクール 銅賞

感謝のこもった「いただきます」

伊勢崎市立第四中学校 1年島崎 真成

米作りで改めて学びました。は、実は日本だけの文化なのです。私は「いただきます」と言うことは、実は日本だけの文化なのです。私は「いただきます」と言うことお箸を進めているでしょうか。食事の前に感謝をするということ皆さんはご飯を食べる前に、「いただきます」と感謝をしてから

でした。私はこのお米作りで、農家さんのお米に対しての努力や美で、地域の農家さんの田になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしてついに収かくの日になり、稲がコンバインに刈り取られた。そしているようで、地域の農家さんの田になり、稲が田が、おいに対しているようで、地域の農家さんの田になり、稲が田が、総合の授業の一環今から約二年前、当時小学五年生だった私は、総合の授業の一環

りました。そこで私は「いただきます」と言うことは、その食べ物を 気付きました。 作るまでに関わった人達に対して、とてもうれしい言葉なんだと さらに楽しさを学ぶことができました。しかし、収かくできたお 言わずに食べようとしました。私は、一生懸命に育ててきたお米を 米を家で炊き、家族で食べようとした時、妹が「いただきます」を 味しいお米を届けるための苦労や、農業のチームワークの大切さ、 「いただきます」と言わずに食べられることに、なんだか悲しくな

その食べ物を作っている人が、「いただきます」を言われたらどれ うです。私は、その人達に「いただきます」と食事の前に言うべきだ 際はお金を支払うからいいじゃないかと思う人が多々いるようよ いと思ったり、別に言わなくても良いんじゃないか、また、外食の 撃を受けると同時に、アンケート結果が正しいのか疑ってしまい ろ、朝・昼・夜の毎食事に「いただきます」と声に出して言う人は によると、『二十歳~六十九歳の男女千二百人に調査したとこ 少なくなったように感じます。飲食店情報検索サイト「ぐるなび」 ほどうれしいのかを知ってもらいたいです。 と強制はしませんが、せめて「いただきます」にこめられた意味や、 ました。しかし、意外なことに「いただきます」と言うのははずかし 三十五%になりました。」とあります。私はこの記事を読んだ時、衝 ですが、最近では「いただきます」と食事の前に必ず言う人は

ことに関してのありがたさの度合いが違うように感じます。皆さ 感謝をする文化を守っていきたいです。「いただきます」があるのと ない食事は大分、食事に対しての心構えと言うか、食事を頂だける 私は、日本古来からの風習である「いただきます」と食事の前に

> 調理してくれた方々、それがイメージしずらかったらお母さんに 感謝をする感じで、「いただきます」と言ってみてはどうですか。 んも、食事の前に、生産者の方々や輸送してくれた方々、はたまた

群馬県コンクール 銅賞

お米と祖父と私

前橋市立南橘中学校 2年

木

憩

に思っています。なぜなら、日本は米食文化であり日本の農業 の方々が作るお米がとてもおいしいからです。 「日本人でよかったなあ。」と私は日頃からご飯を食べるたび

も色々な種類があり、とてもおいしいのですが私は、のりや卵 ンと答えていました。ですが、今となって考えてみると、パン と何度か人に聞かれたことがありますが、小さい頃の私は、パ かけご飯が大好きなので、今は迷わずご飯と答えます。 「ご飯とパン、どっちが好き?」

の方が好きです。そして、私はお腹がすくと モチ、プチプチしていておいしいのですが、私はいつもの白米 うち三、四回ぐらいは、お米を炊くときに、グルテンフリーの 雑穀米を混ぜて炊いてくれています。もちろん、雑穀米もモチ 私のお母さんは、家族の健康や栄養面の事を考えて一週間の



「おにぎり握ってほしい!」

大好きです。の、ご飯本来のおいしさを味わえるシンプルな塩むすびが私はおいしく感じる、具材を何も入れない塩だけで味付けしただけと、お母さんによく頼んで作ってもらっています。白米がより

もらったり、沢山遊んでもらったり、雑学や勉強など、色々な やさしくクルクルと八回ほど混ぜて、水を捨てて二、三回くり ラルウォーターなどの水を使うといいこと。米を研ぐときは、 りきって正しく計量すること。最初の水はよく吸うので、ミネ すぐ切れるので便利だということ。計量カップをおき、米を山 もらいました。ボウルとザルを重ねて洗うと、洗った米の水が ことを教えてもらいました。その中で、私はお米がおいしくな 家に行っていました。おじいちゃんには、色々な遊びを教えて には、五年前に亡くなってしまった大好きだったおじいちゃん 米は格別においしかったです。 などを教わりました。そうやって、ていねいに研いで炊いたお 返して洗うこと。炊くときは、一時間以上お米に水を浸すこと 盛りになるまで入れ、底をトントンと打ちつけてからハシです る研ぎ方や炊き方も小学校二年生の時におじいちゃんに教えて がいました。私は大のおじいちゃん子で、よくおじいちゃんの ます。それは、私の祖父が関係しているのだと思いました。私 なぜ私がこんなに白米が好きなのかなあと考えたことがあり

おじいちゃんに、

「なんでお米にそんな詳しいの?」

と聞いたら

「白いご飯とおみそ汁が人生最後に食べたい食事なんだよ。」

と、おじいちゃんは答えました。そして、

「白いご飯を食べると大きくなるんだよ。」

私は小さいながらに、く、大きなご飯茶碗でいつもご飯をたくさん食べていました。とも言っていました。おじいちゃんはたしかに、背がとても高

私が祖父から教わったこと。将来私の子供や孫にも教えていーツはここにあるのだと思いました。と思っていました。だから、きっと私が白米を好きになったル「おじいちゃんみたいに、ご飯が大好きな人になりたい。」

群馬県コンクール 銅賞

喜んでくれるのだと思います。

って、お米のおいしさを伝えてあげられたら天国にいる祖父は

ほかほか

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 2年 薄波 里緒

ある。このことから分かるように、現代人の米離れ、洋食化が進んえる人半分、パンと答える人半分、シリアル数人といったところで口をそろえて「ご飯」といったであろう。しかし現代ではご飯と答「今日の朝ご飯何食べたの。」クラスの人に聞くと昔であれば皆

好きだ。とでしか得られないものがあると信じている。私は米と食事が大いる。米を通してでしか味わえない、そしてしっかり食事をとるこ手軽であろう。しかし、私はこれからも米を食べ続けたいと思ってでいる。確かにパンやシリアルは炊く手間がないし、時短もでき

そう思うようになった理由は二つある。一つ目は三食米を食べないた。その時の安心感を今でも覚えている。この時、私は自分が実感の、会が作ったそうで、とても美味しかった。その時の安心感を今でも覚えている。この時、私は自分が実感のでだった。そこから私は、当時とても仲の良かった友達の家に泊まらせいた。その時の安心感を今でも覚えている。この時、私は自分が実感のでだった。そこから私は、米を食べたいという猛烈な衝動に駆らめてだった。そこから私は、米を食べたいという猛烈な衝動に駆られ、母が炊いてくれた炊きたての米を茶碗いっぱいにもり頬張った。その時の安心感を今でも覚えている。この時、私は自分が実感している以上に、米が好きなのだということに気がついた。米は利に安心をくれる。これがプラ目の私が米を大好きな理由だ。

つも作ってくれた。母も朝は仕事の準備で忙しいはずなのに。私はいった。母は「おにぎりは時間がかかるんだよ」と言いながらも、二った。そんなある日私は母に「明日のお弁当はおにぎりがいい」とたのは中学一年生のとき。私は中学に入り、給食からお弁当に変わってもらったおにぎりは美味しいということだ。このように思っ二つ目は、母が握ってくれたおにぎりだ。簡潔に言うと、人に作

嬉しかった。そして、待ちに待った昼食の時間になった。私は思いき嬉しかった。そして、待ちに待ったのできるかもしれない。しかし、米を噛みしめ、でてるのできることのできるものだと思った。米を強して、伝え受けとる。米は食を通し、気持ちを伝えられるものなのだ。確かに、パンなどでもそれはできるかもしれない。しかし、米を噛みしめ、でてくる甘さがパンにはない。パンでは、食事に思いをはせることでくる甘さがパンにはない。パンでは、食事に思いをはせることでくる甘さがパンにはない。パンでは、食事に思いをはせることが私にはできないのだ。

これらが、私が米と食事が大好きな理由である。しかし、現代の人はこの米の良さを理解している人が少ないように感じる。そのような理由で、私に、食事というものは人間であれば絶対に行わなくてはならないた。食事というものは人間であれば絶対に行わなくてはならないた。食事というものは人間であれば絶対に行わなくてはならないた。食事というものは人間であれば絶対に行わなくてはならないた。食事とである。であれば、それは幸せな方が良いというものだ。食事とでである。であれば、それは幸せな方が良いというものだ。食事とで何度も行うものを色づけてくれるのだ。このような理由で、私は米と食事が大好きだ。



群馬県コンクール 銅賞

食事の良さ

•

前橋市立木瀬中学校3年前11日 遥香

人との関係を深めることであると思います。私は、食事とは人が生きるためにかかせないこと、そして人と

いったできることができました。 しょに食事ができることや一人のときと比べて会話をしながらの中で三人で食べることになりました。久しぶりに祖父母といっしょに食事ができることや一人のときと比べて会話をしながらの中で三人で食べることになりました。久しぶりに祖父母といっしょに食事ができることや一人のときと比べて会話をしながら食事をすることができることや一人のときと比べて会話をしながらの中で三人で食べることになりました。久しぶりに祖父母といっしょに食事ができることが一人のときと比べて会話をしながら食事をすることができました。

他にも、私のいとこや叔母さん、伯父さんたちが集まって食事他にも、私のいとこや叔母さん、伯父さんたちが集まって食事をするとされてのいとことがあります。大人数であればあるほど、普段関わりがあまりなくても楽しそうに会話をしています。それを見ると、だれかとなくても楽しそうに会話をしています。それを見ると、だれかとことがあります。大人数であればあるほど、普段関係なくみんなが話していたり、同じテレビをするときも、年齢関係なくみんなが話していたり、同じテレビをするときも、年齢関係なくみんなが話していたり、同じテレビをするときも、年齢関係なくみんなが話していたり、同じテレビをするという。

ていくのを感じました。しかし、二〇一九年にコロナウィルスがはやりはじめ、人と食いかし、二〇一九年にコロナウィルスがはやりはじめ、人と食いののを感じました。小学生だったこともあり、そのことにれを合わせることをしなくなり、だれとも話さずに前を向いてよっていくのを感じました。小学生だったこともあり、そのことにもちろん、これまで行っていた他学年といっしょに食べる会もなくなってしまったので、人と人とのつながりが進しくなりました。小学校では、給食を食べるとき事をするのが難しくなりました。小学校では、給食を食べるときしかし、二〇一九年にコロナウィルスがはやりはじめ、人と食

私の家では、親の帰りが遅かったり、姉が夜まで塾で勉強してらがちがうのか」と思ったのを覚えています。家族全員で食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるとき「食事をするだけでも、だれか一人欠けたらこんなに感じるといることが多います。

うけれど、食事の大切さを忘れずに生きていきたいと思います。ると一人暮らしや仕事などで人と食事をする機会が減ってしまのコミュニケーションをとれることに気がつきました。大人になとしか考えられませんでしたが、家や学校での経験を通して人とこれまで私は、「食事をすることの良さ」とは、健康でいるため

群馬県コンクール 銅賞

日本のお米が一番

前橋市立南橋中学校 3年 永川 侑輝

し、いいことだと思います。といいことだと思います。お米は腹もちがよくて、おにぎりなどに、いいことだと思います。おなかが満たされて幸せな気持ちになります。で軽食をとっても、おなかが満たされて幸せな気持ちになりまます。市販のごはんパックも非常用に常備していて、いざというます。市販のごはんパックも非常用に常備していて、いざというます。市販のごはんパックも非常用に常備していて、いざというます。おおかが満たされて幸せな気持ちになりまで軽食をとっても、おなかが満たされて幸せな気持ちになりまし、いいことだと思います。

ではだと思います。パスタやうどんにはできない、お米の良さでではだと思います。パスタやうどんにはできない、お米の良さでではだと思います。パスタやうどんにはできない、お米のは、ご飯ならいさらした食感をいつでもおいしく食べられるのは、ご飯ならではだと思います。パスタやうどんにはできない、紛からとりだすツヤーあると思っています。別のです。我が家では夜炊いたご飯のではだと思います。パスタやうどんにはできない、お米の良さではだと思います。パスタやうどんにはできない、お米の良さでではだと思います。パスタやうどんにはできない、お米の良さでではだと思います。パスタやうどんにはできない、お米の良さでではだと思います。別が、というでは、お米の名柄や炊き加減も気にして楽しんでいます。自分をあると思っています。

きなのは、おそらくこの経験もあるからだと思います。好きです。その時から、米がとても大事な食べ物でした。米が大好すがラーメンやパスタ、うどんがありどれもおいしいです。今も麺を大量に買ってもらって食べていました。食感は小麦と違いま僕はアレルギーもちで、幼い頃は小麦もダメだったので、米粉

日本では、お米を主食で食べる人がほとんどだと思っていましては像しています。

なすぎて、食事を楽しむことができなかったと思うからです。思います。お米がなかったら、幼い時の僕は食べられるものが少も食べ続けていこうと思います。僕は、米が主食で良かったなとおいしく食べることで、他の国の「食」にも興味をもち、食事を楽おいしくのことから、僕はお米など自分の国の食べものを大事にこれらのことから、僕はお米など自分の国の食べものを大事に

け、家族と共に食事を楽しんでいきたいです。す。これからも作ってくれる人々に感謝しながら、お米を食べ続かありません。日本のお米が、僕は世界一おいしいと思っていまで、今の食生活があります。毎食、食べても飽きないものはなかなお米を、代々作り続けて守ってきてくれた人々がいたおかげ

第49回「ごはん・お米とわたし」作文・図画 JA別応募数

JA名	作文	図画	計
赤城たちばな	10	0	10
前橋市	328	192	520
佐波伊勢崎	346	195	541
たかさき	584	148	732
はぐくみ	23	3	26
たのふじ	3	4	7
甘楽富岡	65	60	125
碓氷安中	97	69	166

JA名	作文	図画	計
北群渋川	99	35	134
あがつま	11	7	18
嬬 恋 村	12	11	23
利 根 沼 田	132	15	147
にったみどり	275	42	317
太田市	700	192	892
邑楽館林	343	241	584
合 計	3,028	1,214	4,242

めいさつ A群馬中央会代表理事会長

入賞された皆さんおめでとうございます。に応募いただいた皆さんに心からお礼申し上げます。また、第49回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

派な作品で、感銘を受けました。品が寄せられました。いずれも一生懸命に取り組まれた立の28点、図画部門が1,214点、合計4,242点の作今回は、県内の小・中学生の皆さんから、作文部門が3,

を目的としています。 全国のJAグループで実施しているこのコンクールは、全国のJAグループで実施しているこのコンクールは、 会正とを改めて知ってもらうとともに、次世代の子どもたくことを改めて知ってもらうとともに、次世代の子どもたはじめとする農業全般と、お米・ごはん食が健康に結びつはじめとける農業全般と、お米・ごはん食が健康に結びつはいる日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作を

ど J けその国で生産する」という「国消国産」をキーワードに、 と位置づけ、「国民が必要として消費する食料は、 給率がカロリーベースで3%と低い中、 してまい います。JAグループでは、10月・11月を「国消国 などにより、私たちの暮らしにも大きな影響が懸念されて 今般、 群馬収穫感謝祭を開 月 16 日 の Aグループの活動を一般消費者にPRしました。 日本の食料・農業を巡っては、 産物の即売会や国消国産スタンプラリーの実施な ŋ ました。本県では、 々なイベントを通じて県民の皆さまに情報発信 「国消国産の日」を「国消国産一斉行動日」と 催し、多くの方々にご来場いただき、 昨年9月2日にJAグルー 世界情勢の緊迫化 依然として食 できるだ 産月間」

つないでまいります。とし、食料自給率の向上をはかり、私たちの食卓を未来にも「国消国産」を実践することで、農業を持続可能なもの

きたいと考えております。 きたいと考えております。 会とも行政、学校関係者、JAグループで緊割、地域の食文化などに対する理解を広める取り組みを行っ食への興味・関心を高め、食の大切さ、食を支える農の役料理教室、バケツ稲づくり、各種コンクールなどを実施し、非理教室、バケツ稲づくり、各種コンクールなどを実施し、

る心、 せん。 なく、 ネルギーのもとになる栄養がたくさん含まれています。 経験になったのではないでしょうか。 ためてお米について見つめ直していただく、 大切なものであり、これからも守っていかなければなりま を果たしています。 米をつくる水田をはじめ、 お どの 米は日本の主食であり、 今回の作品を仕上げるにあたって、 家族を大切にする心を感じ取り、一人ひとりがあら 取り組みにおいても、 自 .然環境の保全や美しい景観の形成など多くの役割 お米も水田も、 農業には食べ物を作るだけで 考える力や体を動かす力などエ その中心にあるのはお米で 私たちにとって非常に 自然を大切にす とても貴 重 お

とさせていただきます。で支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、あいさつご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、あいさつめにも、このコンクールがますます発展するよう今後ともし上げるとともに、子どもたちの豊かな心を育んでいくた事負の先生方、関係団体の皆さまのご協力に厚くお礼申最後に、作品のご指導をいただいた小・中学校の先生方、

"文部門小学校低学年審査評

内山 仁

り組もうとする思いが綴られた作品では、 題を取り上げ、自分なりに解決策を考えて、 での体験から、 持ち等が子どもたちの素直な言葉で表され、楽しく作品を読 きた喜び、家族の温かさ、 ました。 を一つの要因とした国産米の不足が多くのメディアで報じられ、 のこと、農作物にも多くの被害をもたらしています。昨年の高温 されました。こうした異常気象は私たちの日常生活はもちろん もたちの姿が感じられました。 み進めることができました。また、家庭内での会話や買い した。ごはんやお米に関わった体験を通して感じることので お米に関わる事柄や問題点を題材に作文に取り組んでくれま 実際に店頭で販売されているお米が極端に減少する状況があり そのような中で、今年もたくさんの子どもたちが、ごはん・ 昨 年に引き続き、 夏季における台風の上陸といった日本の異常気象が報道 食卓で話題となった家庭もあったのではないでしょうか。 農業に携わる人々の高齢化や米不足などの問 猛暑の夏、 自分を取り巻く人々への感謝の気 数十年に一度と言われる豪雨の 成長している子ど 課題の解消に取 物

とをいくつか述べてみます。のようなところが評価されたのか、審査を通じて気づいたこそれぞれの学年の入賞はわずかな差で決まりましたが、ど

入賞した作品はいずれも、書き手が何を伝えたいかが明確

されることになり、題名の独自性にもつながっています。体的な内容が明確になっているため、題名に作品の内容が反映作文を仕上げた後に読み直しをしたり、書き直しをしたりし体的な内容が整理されて、文章としてまとめられています。になっており、読み手に共感してもらうためにふさわしい具

多くありました。作品がどのように展開されるのか、興味深うえでふさわしい体験や出来事を題材に選ぶことが大切です。最後のまとめまでしっかりと書き切るよう心がけましょう。最後のまとめまでしっかりと書き切るよう心がけましょう。最後のまとめまでしっかりと書き切るよう心がけましょう。本感性により、はっとするような題材に選ぶことが大切です。本感性により、はっとするような題材に選ぶことが大切です。本感性により、はっとするような題材を取り上げたものが数や感性により、はっとするような題材を取り上げたものが数や感性により、はっとするような題材を取り上げたものが数や感性により、はっとするような題材を選ぶということも大切にしてほしいと

応募された作品の中には、子どもたちの素直で素朴な視点を感性により、はっとするような題材を取り上げておきくことのできるような結論でまとめられてしまっていたのは少し残念です。貴重な気づきのあった体験を取り上げておきながら、終末で気づきの内容が自分の言葉で伝えられていないだ。終末で気づきの内容が自分の言葉で伝えられていないことはもったいないです。

すばらしい作品が生み出されることと思います。言葉でまとめ、作品を仕上げようと粘り強く取り組むことで、ます。最後まで作文と向き合い、自分の考えや思いを自分のめに必要な題材選定の視点を持っているということでもあり

『文部門小学校高学年審査評

猿谷 端

読ませていただきました。「どんな作品かな…」と期待しながらんの作品が集まりました。「どんな作品かな…」と期待しながらはん・お米とわたし」の作文コンクールにみなさんからたくさ縁色の稲穂が黄金色に色づく季節を迎えました。今年も「ご

本当にどの作品も、「ごはん・お米」と向き合い、みなさんが本当にどの作品も、「ごはん・お米」と向き合い、みなさんがあたことや考えたことなどが体験を通して素直につづられている様子も書かれています。「ごはん・お米」と向き合い、みなさんが本る様子も書かれています。

めてみましょう。
おなさんの作品から、特に心にひびいた事がらについてまと米作りや米不足の問題に関心を寄せている作品もみられました。の感謝の気持ちも表されていました。また、もう暑の中でのおの感がの気持ちも表されていました。また、もう暑の中でのおりであれていました。また、もう暑の中でのおりであれていました。

ていることが伝わってきます。葉が目に付きました。どちらも「お米は元気の源だ」と実感し悪が目に付きました。どちらも「お米は元気の源だ」という言四年生の作品からは、「お米大好き」や「おにぎり」という言

の感謝の気持ちも表されています。た経験から、お米の大切さや、さらに米作りにたずさわる方へた経験から、お米の大切さや、さらに米作りにたずさわる方へする作品が多くみられました。稲作りの大変さを、作業を通し

ている様子もみられます。の違い」、「食品ロスの問題」など、お米に関する疑問を探求し、一年生の作品の中には、「米作りの歴史」や「品種による食感

がみられ、たのもしささえ感じられました。 とや考えたことが、素直につづられています。また、自分の生しく感じました。「そうなんだ…」、「なるほどね…」と納得したり、「そうだよね…」と共感したりしながら読んでいました。 作品全体を通して、「ごはん・お米」についての希望や明るさがみられ、たのもしささえ感じられました。

ているから、読み手の心に届いた文章になるのだと思います。のばかりです。それはみなさんの気持がありのままにつづられこのようにみなさんの作品は、どれも心を引きつけられるも

こともできるでしょう。
一方、読んでいて「残念だなぁ」と思ったところがあります。一方、読んでいて「残念だなぁ」と思ったところがす。細かく説明しなくても登場人物との会話やなったところです。細かく説明的になりすぎて、文章が平板にしく知らせようとしてか、説明的になりすぎて、文章が平板にしていた。

えが、読み手により強く伝えられると思います。しょうか。そうすれば、内容も深まって自分の感じたことや考「これが書きたい!」と思う内容をくわしく書いてみたらどうでまた、書きたいことがたくさんある中からポイントをしぼり、

ことや考えたことを作品にまとめてみましょう。
これからも「ごはん・お米」に関心を持って、自分の感じた

作文部門中学校審査評

上原 広行

皆さんが今後作文を書く時の参考にしてください。には大変苦労しましたが、その中で気づいたことあげますので、一つ一つが味のある素晴らしい作品で、優秀作品を選出するの

でいくと、一つ一つのエピソードは興味深いものが書かれている強く伝えたいテーマを絞り込んでほしいと思います。作文を読ん強く伝えたいテーマを絞り込んでほしいと思います。作文を読んまず作文を書き出す前に、自分のお米に関わる体験や思い出、まず作文を書き出す前に、自分のお米に関わる体験や思い出、

なってしまった作文が少なからず見受けられました。のに、自分のテーマが曖昧なために全体的にぼんやりした印象に

次に用意した作文の材料を、自分の思いがしっかり伝わるように表現を工夫してみましょう。そのときの情景や表情や言葉などに表現を工夫してみましょう。そのときの情景や表情や言葉など報を書く場合には、調べたことを書き写すだけではなく、そこに報を書く場合には、調べたことを書き写すだけではなく、そこに報を書く場合には、調べたことを書き写すだけではなく、そこにも分の感想や経験なども織り交ぜながら、自分の考えを書き込むらいのでは、

しっかりした作品に仕上がります。一度しっかり書き込むことで、作文全体の統一感が生まれ構成のす。まとめの段落で全体を通して自分の伝えたかったことをもうす。まとめのおとめの部分は特に大切にしてほしいと思いま

今年もそれぞれの作文が、お米やごはんに関わる自分なりの貴重な体験や考えを表現してくれました。その中で得られた気づき重な体験や考えを表現してくれました。その中で得られた気づきが、お光やごはんに関わる自分なりの貴

凶画部門小学校・中学校審査評

清水 弘己

く、審査にも一層の熱が入りました。計で昨年をかなり上回る結果となり一安心しました。力作も多計で昨年をかなり上回る結果となり一安心しました。力作も多今回は中学生の出品点数が前回よりも百三十点程増となり総

ずやや残念な気がしました。今回も小学生に以前のような溌剌とした作品があまり見られ

に拝見させていただきました。例年に倣って、左記のような審査目安を立てて一点一点慎重

★表現内容が豊かで充実している(結果として現れる)★描くものへの愛情が感じられる(取り組む姿勢)★個性的で表し方に工夫がみられる(構図や彩色等の工夫)★何を表したいかがはっきりしている(テーマの明確化)

★発達段階にふさわしい表現が見られる

て見た通り、見えた通りに形作ることを心掛けてみたらどうでっている様子が伺えました。それぞれの学年、発達段階に応じ見られ残念に思いました。また、全体的に顔の描き方に手こず見られ残念に思いました。また、全体的に顔の描き方に手こずほとんどの作品がテーマを踏まえ描かれてはいましたが、単

格外ということで選外としました。しょう。なお、今回は文字の入った作品が数点あり、これは規

力作を一堂に並べたところでいよいよ金賞(一点)、銀賞、力作を一堂に並べたところでいよいよ金賞(一点)、銀賞、力作を一堂に並べたところでいよいよ金賞(一点)、銀賞、

終わりに、以前にも記しましたが、普段からお米やごはんにが力強く画面に収まり感心させられました。へは美しさが感じられました。バランス良く色や形や空間などの賞作品は、いずれも各学年に相応しい誠実さや明快さある

講評とします。 一層の関心をもってその上で描画に取り組んで欲しいと願って一層の関心をもってその上で描画に取り組んで欲しいと願って終わりに、以前にも記しましたが、普段からお米やごはんに

第4回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール群馬県審査員

作文部門

内 Щ

仁

元前橋市立天川小学校長

端

猿

谷

元安中市立松井田東中学校長

上

原

広行 元前橋市立第五中学校長

义 画 部 門

井 田

清

水

弘

己

共愛学園前橋国際大学客員教授

健

元高崎市立第一中学校長群馬県美術会副会長・県展審査員公益社団法人二科会会員

知ってましたか?

お米って、実はコスパがいい!

JAグループサポーター 林修

他の食品と比べてみよう

ご飯茶碗1杯分のお米の値段は約49円です。ふだん口にする他の食品などと比べたのが下の図です。 高くなったと感じていたお米ですが、こうして比べてみると、経済的なことが分かります。









187円



128_P

※令和6年10月時点の総務省小売物価統計調査結果に基づく ※ご飯茶碗1杯は150g、菓子パンは100g、カップ類は1個、水は2Lの値段 ※ご飯茶碗1杯の値段は、150gのご飯を炊く前の精米を65gとして計

お米は体に良いこと、いっぱい!

お米は腹持ちが良く、必須アミノ酸が豊富で免疫機能・代謝に貢献します。そして、お米に含まれる糖質は脳を活性化させる栄養源になり、さらに、でんぷん質が食物繊維のように働いて、腸内環境を整えてくれることが分かっています。

免疫機能・ 代謝に貢献

脳を 活性化

腹持ち が良い



腸内環境 を整える



お米をもっと食べて、日本の農業を応援しよう。

JAグループは、お米をはじめとする、 私たちの国で消費する食べものは、 できるだけこの国で生産する 「国消国産」を進めています。





耕 そう、大 地 と 地 域 の みらい。 •// JAグループ群馬



